KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立田植同時除草剤散布機

GS1
GS1W

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

はじめに

ご挨拶

・共立田植同時除草剤散布機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この散布機は、軽量・小型に製造された田植機搭載型の散布機です。
・この散布機は水田への薬剤散布に使用するものであり、目的以外に使用しないでください。
・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

農薬使用上の留意点※

・農薬ラベルをよく読んでください。
農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
・農薬取締法が改正されました。
平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
②使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量、
③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

※２８ページの**農薬使用上の注意**も合わせてよく読んでください。

本機の特徴

・本機は田植えと同時に除草剤（１キロ粒剤）を散布するための機械で、田植機の植付爪に連動して自動散布することができます。
・本機は植付爪の作動回数をセンサーで検出することにより、車速に連動した散布ができるよう設計されています。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。
・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。
・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・本製品は部品の取付作業が必要となります。
・田植機の操作については、田植機の取扱説明書に従ってください。
・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
梱包部品一覧 4
各部の名称 6
　各部の名称とその機能 6
散布量設定方法 7
　調量ダイヤルの設定 7
　調量ダイヤル設定目安表 8
　散布量の確認 9
取付作業 １２
　取付準備 １２
　磁気センサーの取付 １５
　ステーの取付 １７
　泥よけカバーの取付 ２０
　散布カバーの設定（***GS1***） ２１
　散布カバーの設定（***GS1W***） ２２
　散布機の装着、調整 ２２
　コントロールボックスの取付 ２３
　バッテリの接続、配線 ２４
　試運転 ２５
正しい作業のために ２６
　作業者の体調 ２６
　保護具 ２６
　圃場 ２７
　薬剤 ２８
散布作業 ２９
　作業前の準備 ２９
　散布作業 ３０
操作方法 ３１
散布終了後 ３２
　作業後の手入れ ３２
　長期保管 ３３
不具合と対策 ３４
特別注文品 ３６
仕様 ３８

警告表示マークの意味

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

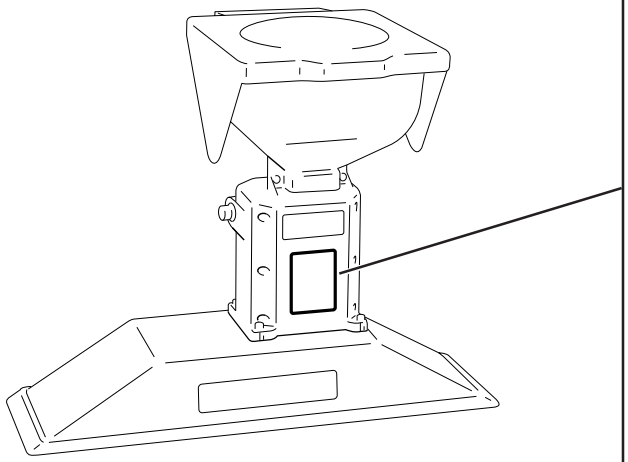
丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。
  ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

警告表示ラベル



⚠ 注　意

- ご使用前に必ず機械と農薬の取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
- 作業中に少しでも体調がおかしくなったときは直ちに作業を中止し、医師の診断を受けてください。
- 回転部にはぜったいにさわらないでください。けがをするおそれがあります。
- 点検、整備のときは電源のスイッチを切り、電源ケーブルをバッテリーから外してから行ってください。

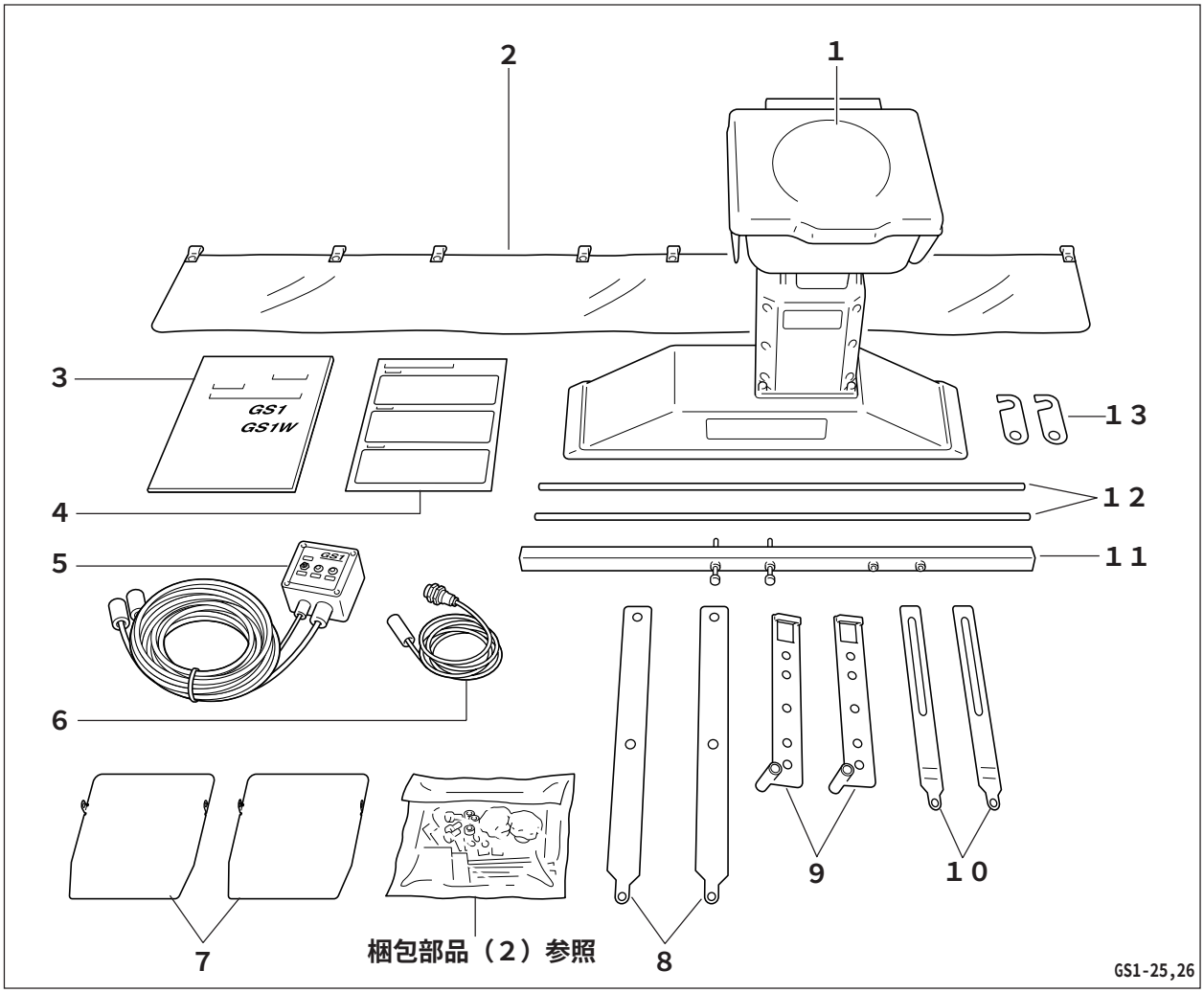
X505-001260

GS1-44

梱包部品一覧

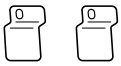
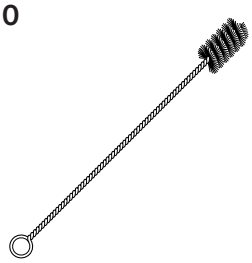
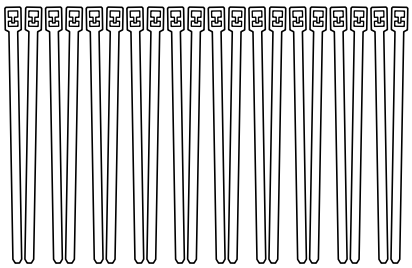
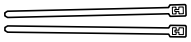
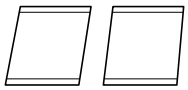
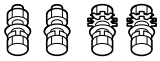
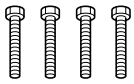
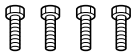
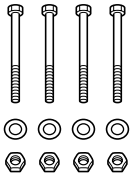
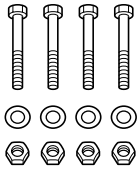
梱包箱の中には、下記部品が梱包されています。　梱包箱を解きましたら、まず中の部品を確認してください。

梱包部品（1）



番号	部　品　名　称	個数
1	本体	1
2	泥よけカバー	1
3	取扱説明書	1
4	調量ダイヤル設定目安表ラベル	1
5	コントロールボックス	1
6	磁気センサー	1
7	フラップ板（***GS1***のみ）	2
8	ステー（A）	2
9	ステー（B）	2
10	ステー（C）	2
11	ステー（D）	1
	ボルト（M8×70）	2
12	ステー（E）	2
13	ステー（F）	2

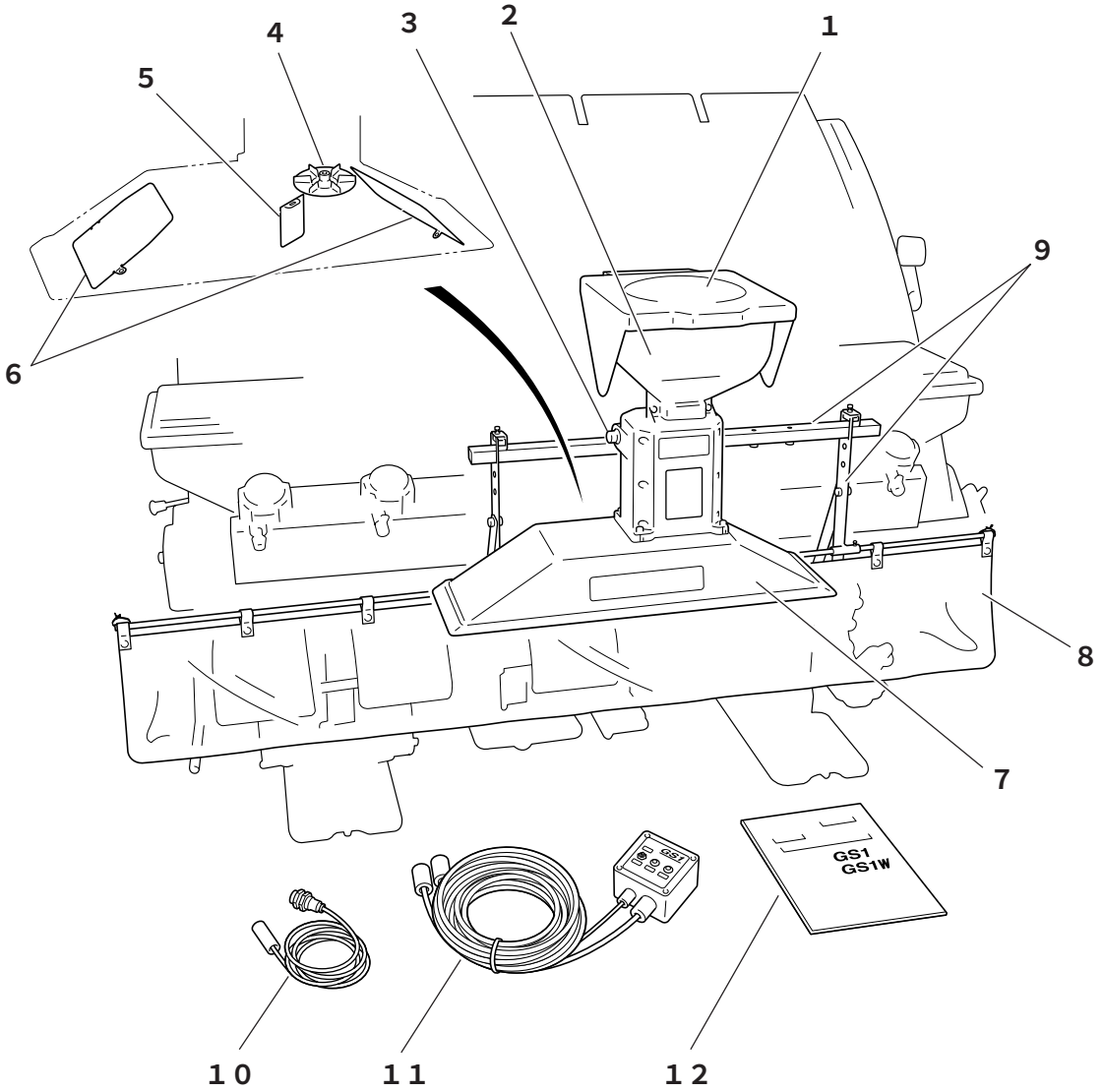
梱包部品（2）

1 	2 	3 	4  ＜幅広タイプ＞
5 	6 	7 	8 
9 	10 	11 	
12 	13 	14 	15 
16 	17 	18，19，20 	21，22，23，24 
25 （ヤンマー用） 	26 （クボタ用） 	27，28，29 （三菱用） 	30，31，32 （イセキ用） 

番号	部　品　名　称	個数
1	ノブ	2
2	センサー検知板（A）	2
3	センサー検知板（B）	2
4	センサー検知板（C）	2
5	ステー押え金具	2
6	ブラケットコネクタ	1
7	センサーブラケット	1セット
8	六角レンチ	1
9	クリップ	5
10	ブラシ	1
11	コンベックスバンド（大）	20
12	コンベックスバンド（小）	2
13	マジックテープ	1セット
14	歯付座金	1
15	ネジ（M4×10）	4
16	ネジ（M4×8）	2

番号	部　品　名　称	個数
17	ボルト（M6×20）	2
18	ボルト（M10×25）	4
19	ナット（N10）	4
20	歯付座金	4
21	ボルト（M10×65）	2
22	ナット（N10）	2
23	歯付座金	2
24	ばね座金（SW10）	2
25	ボルト（M8×40）	4
26	ボルト（M8×20）	4
27	ボルト（M6×65）	4
28	座金（W6）	4
29	ナット（N6）	4
30	ボルト（M8×50）	4
31	座金（W8）	4
32	ナット（N8）	4

各 部 の 名 称



GS1-24

各部の名称とその機能

１．薬剤タンクフタ	―薬剤タンクを密封するふたです。半開・全開の二段階に開きます。
２．薬剤タンク	―５Ｌ分の除草剤（1キロ粒剤）が入ります。
３．調量ダイヤル	―薬剤散布量を調整するダイヤルです。
４．回転翼	―薬剤を飛散させる翼です。
５．整流板（***GS1***のみ）	―散布カバー内での薬剤の飛散程度を適正にするものです。
６．フラップ板（***GS1***のみ）	―田植機の条数に応じて取付けます。
７．散布カバー	―薬剤を均一に散布するためのカバーです。
８．泥よけカバー	―散布カバー内への泥はねを防ぎます。
９．搭載用ステー	―散布機本体部分を田植機に固定するステーです。
１０．磁気センサー	―植付爪の動きを感知するセンサーです。
１１．コントロールボックス	―散布機の操作をするものです。
１２．取扱説明書	―機械をお求めになったとき必ず付いています。 機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

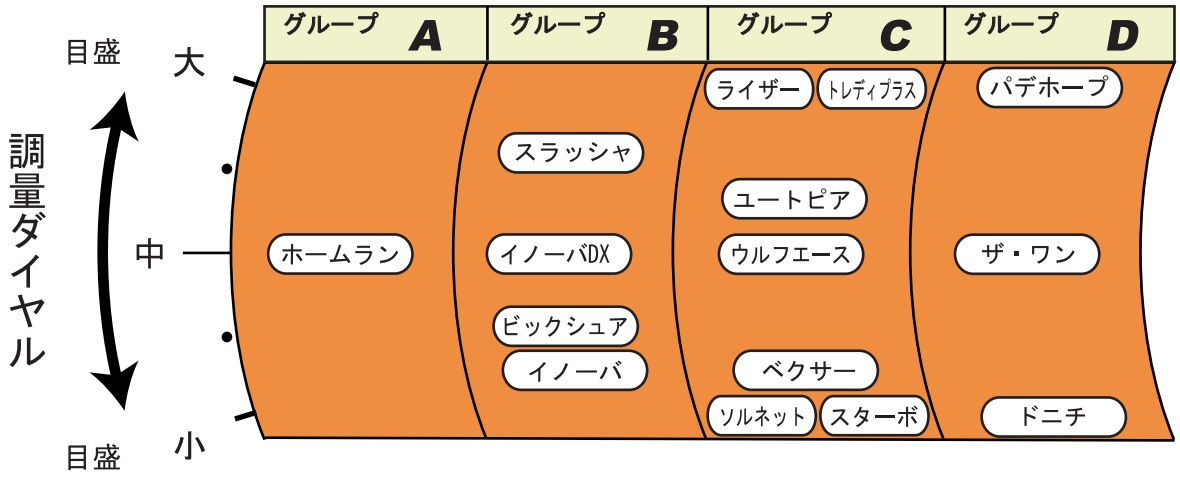
散布量設定方法

調量ダイヤルの設定

薬剤の散布量は次のようにして調量ダイヤルで設定します。
始めに田植機の**条数**・**植付株数**・**使用薬剤**を確認し、調量ダイヤルの設定条件を決めます。

１．薬剤のグループ分け

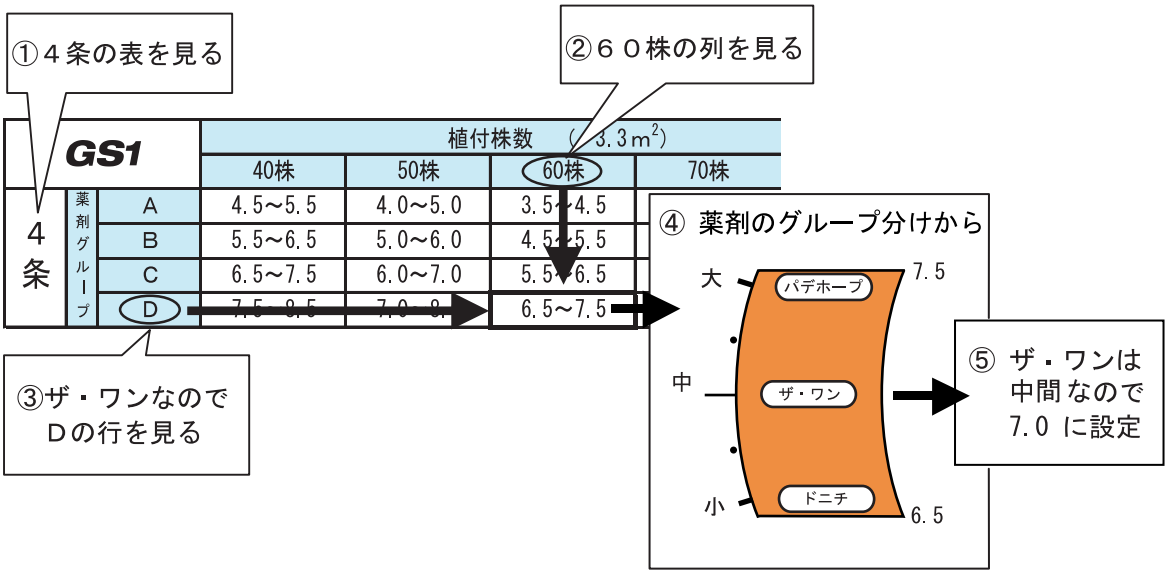
- 薬剤は形状・比重などにより吐出量に差があるため、４つのグループに分けられます。
- 使用薬剤が次の表のどのグループのどの位置にあるか確認します。
- 各グループ内の薬剤名の**記載位置**は、調量ダイヤルの目盛りと連動しています。



２．調量ダイヤルの設定

- 次ページの調量ダイヤル設定目安表から、条数・植付株数・薬剤グループの選択により、ダイヤル設定の数値を決定してください。
- 決定した目盛幅の中で、上表の薬剤名記載位置から、**目盛大・中・小**を判断し、調量ダイヤルを設定します。

【設定例】田植機：４条、植付株数：６０株、薬剤：ザ・ワンの場合



※ 仮に薬剤が「ドニチ」の場合は目盛小の６．５に、「パデホープ」の場合には大の７．５に設定します。

調量ダイヤル設定目安表

重　要

・目安表の目盛りは、最初に散布量を確認するための目安としてください。

・２目盛り[０．５]での散布量増減率は、１５％を目安としてください。

数値は目盛り幅

GS1			植付株数　（／3.3m²）				
			40株	50株	60株	70株	80株
4条	薬剤グループ	A	4.5～5.5	4.0～5.0	3.5～4.5	3.0～4.0	2.5～3.5
		B	5.5～6.5	5.0～6.0	4.5～5.5	4.0～5.0	3.5～4.5
		C	6.5～7.5	6.0～7.0	5.5～6.5	5.0～6.0	4.5～5.5
		D	7.5～8.5	7.0～8.0	6.5～7.5	6.0～7.0	5.5～6.5
5条	薬剤グループ	A	5.0～6.0	4.5～5.5	4.0～5.0	3.5～4.5	3.0～4.0
		B	6.5～7.5	5.5～6.5	5.0～6.0	4.5～5.5	4.0～5.0
		C	7.0～8.0	6.5～7.5	6.0～7.0	5.5～6.5	5.0～6.0
		D	8.0～9.0	7.5～8.5	7.0～8.0	6.5～7.5	6.0～7.0
6条	薬剤グループ	A	6.0～7.0	5.0～6.0	4.5～5.5	4.0～5.0	3.5～4.5
		B	7.0～8.0	6.0～7.0	5.5～6.5	5.0～6.0	4.5～5.5
		C	7.5～8.5	7.0～8.0	6.5～7.5	6.0～7.0	5.5～6.5
		D	9.0～10	8.0～9.0	7.5～8.5	7.0～8.0	6.5～7.5

GS1W			植付株数　（／3.3m²）				
			40株	50株	60株	70株	80株
7条	薬剤グループ	A	5.5～6.5	4.5～5.5	4.0～5.0	3.5～4.5	3.0～4.0
		B	6.5～7.5	5.5～6.5	5.0～6.0	4.5～5.5	4.0～5.0
		C	7.0～8.0	6.0～7.0	5.5～6.5	5.0～6.0	4.5～5.5
		D	8.5～9.5	7.5～8.5	7.0～8.0	6.5～7.5	6.0～7.0
8条	薬剤グループ	A	6.0～7.0	5.0～6.0	4.0～5.0	3.5～4.5	3.5～4.5
		B	7.0～8.0	6.0～7.0	5.5～6.5	5.0～6.0	4.5～5.5
		C	7.5～8.5	6.5～7.5	6.0～7.0	5.5～6.5	5.0～6.0
		D	9.0～10	8.0～9.0	7.5～8.5	7.0～8.0	6.5～7.5
１０条	薬剤グループ	A	7.0～8.0	6.0～7.0	5.0～6.0	4.5～5.5	4.0～5.0
		B	8.5～9.5	7.0～8.0	6.5～7.5	5.5～6.5	5.0～6.0
		C	8.5～9.5	7.5～8.5	7.0～8.0	6.5～7.5	6.0～7.0
		D	10～11	9.0～10	8.0～9.0	7.5～8.5	7.0～8.0

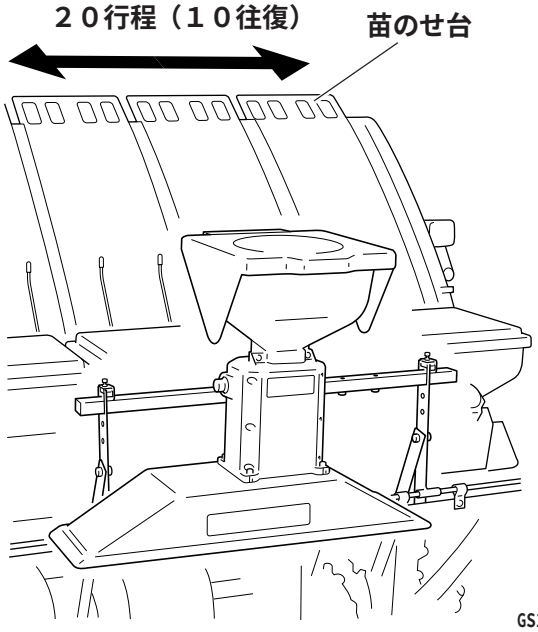
⚠ 警　告

・試しまきを行なうとき田植機は、走行以外の全動作をしますので、試しまき実施者以外は田植機に近づかないでください。
・エンジンの排気ガスには､死に至る有毒なガスが含まれています｡試しまきを室内で行なうときは窓や戸を開けて換気を行ない､風通しの良い状態で行なってください。

重　要

・苗のせ台に苗をのせないでください。
・田植機の条止めは解除してください｡(ユニットクラッチは「入」位置にしてください｡)
・平坦な場所で作業してください。
・田植機がジャイロ仕様の場合は、ジャイロスイッチを「切（手動)」位置にしてください。

図１



散布量の確認

田植機を圃場に入れる前に、次の要領で必ず試しまきをして、散布量を確認してください。

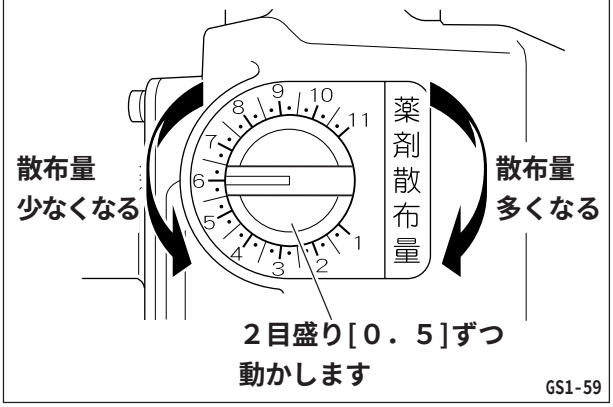
準備する物

・大きなビニール袋（７０Ｌ相当のゴミ袋）など、散布カバー全体を覆える物
・直径２０ｃｍ以上で深さが充分ある受け皿
・はかり{クッキングメーター(フルスケール１ｋｇ以下）など、少量計測できる物}

試しまきの仕方

1. 田植機の設定株数（○○株／３．３m^2)、横送り回数（○○回）または横送り量（○○mm）を確認します。
2. 横送り回数がわからない場合は､苗のせ台が端から端まで動いた間に何回苗取りをしたか､低速運転にて数えてください。
3. エンジンを始動し､フロート下面が３０ｃｍ程度になるように植付部を昇降させます｡植付クラッチレバーを「中立」位置にした後、油圧ストップレバーを「油圧ストップ」位置にします。
4. キースイッチを「切」位置にしてエンジンを停止します。
5. 散布カバー全体を大きなビニール袋で覆います。
6. ***GS1W***の場合には、付属の六角レンチで回転翼を外し､薬剤の落下口の下部に受け皿を近づけて置きます。
7. 薬剤タンクに薬剤を入れます｡最低でも1袋(1ｋｇ)以上入れてください。
8. [調量ダイヤル目盛り]位置は目安表の目盛りから始めてください。
9. 再度エンジンを始動しスロットル低速にて植付部を駆動し、苗のせ台を一番端に合わせます。
   (苗のせ台が端にある状態から空取りを始め端で終えると、計測が容易になります｡)
10. コントロールボックスの電源スイッチを押し「ＯＮ」にします。中速程度で植付部を駆動し、苗のせ台が２０行程(１０往復)したときに駆動を「中立」にし、コントロールボックスの電源スイッチ押して「ＯＦＦ」にします。
11. キースイッチを「切」位置にして、エンジンを停止します。

図１



12. 散布された薬剤を計量します。

13. 計量した量と規定散布量早見表の規定量を比較し、規定量になるように調量ダイヤルで調整してください。（２目盛り[０．５]毎に確認し、微調整は１目盛り[点１つ]動かします。）

14. 11. ～13. を繰り返し、規定量の前後になっているか確認してください。

15. 規定散布量早見表の見方は図２を参照してください。

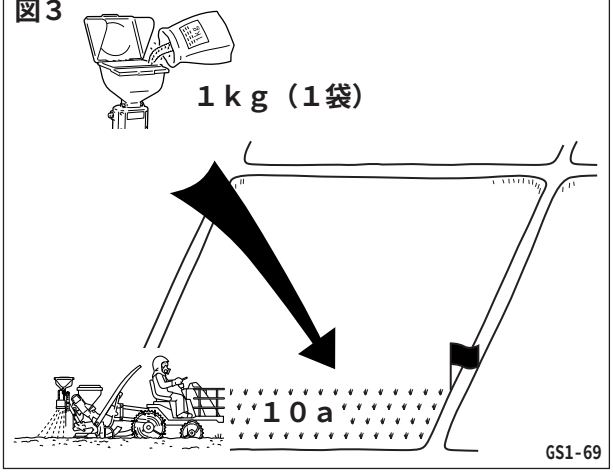
図２　早見表の見方

条数	株数／3.3 ㎡	横送り回数（横送り量mm）							
		16（18 mm）	18（16 mm）	20（14 mm）	22（13 mm）	24（12 mm）	26（11 mm）	28（10 mm）	30（9 mm）
4	80	53	59	66	73	79	86	92	99
	70	60	68	75	83	91	98	106	113
	60	70	79	88	97				132
	55	77	86	96					144
	50	84	95	106					158
	45	94	106	117					176
	40	106	119	132					198
5	80	66	74	83					124
	70	75	85	94					141
	60	88	99	110	121				165
	55	96	108	120	132	144	156	168	180
	50	106	119	132	145	158	172	185	198
	45	117	132	147	161	176	191	205	220
	40	132	149	165	182	198	215	231	248

（例）5条　60株／3.3 ㎡
横送り回数：20回の場合

20行程（10往復）させたときの散布量が110 gならば、10 a当たり1 kg散布できるという意味です。

図３



実際の圃場での確認

重　要

実際の圃場では田植機のスリップ率や湿度による薬剤の状態変化などの諸条件により、散布量が変化することがあります。
最初に散布するとき、散布した圃場面積と使用した薬剤の量を確認して、必要に応じて必ず微調整（０．５～１．０）を行なってください。

1. 薬剤を１ｋｇ（１袋）だけ薬剤タンクに入れます。

2. あらかじめ枕地を除いて１０ａの面積を見積もり、杭などで目印をします。

3. 途中８ａ位のところで薬剤の残量を確認し、最終１０ａまで作業します。

4. その結果から適量を判断し、ダイヤルの微調整を行なってください。

●規定散布量早見表[苗のせ台２０行程（１０往復）の場合]

規定散布量：1ｋｇ／１０ａ（田植機のスリップ率１０%時）

規定散布量（ｇ）

条数	株数／3.3 ㎡	横送り回数（横送り量mm）							
		16 (18 mm)	18 (16 mm)	20 (14 mm)	22 (13 mm)	24 (12 mm)	26 (11 mm)	28 (10 mm)	30 (9 mm)
4	80	53	59	66	73	79	86	92	99
	70	60	68	75	83	91	98	106	113
	60	70	79	88	97	106	114	123	132
	55	77	86	96	106	115	125	134	144
	50	84	95	106	116	127	137	148	158
	45	94	106	117	129	141	153	164	176
	40	106	119	132	145	158	172	185	198
5	80	66	74	83	91	99	107	116	124
	70	75	85	94	104	113	123	132	141
	60	88	99	110	121	132	143	154	165
	55	96	108	120	132	144	156	168	180
	50	106	119	132	145	158	172	185	198
	45	117	132	147	161	176	191	205	220
	40	132	149	165	182	198	215	231	248
6	80	79	89	99	109	119	129	139	149
	70	91	102	113	124	136	147	158	170
	60	106	119	132	145	158	172	185	198
	55	115	130	144	158	173	187	202	216
	50	127	143	158	174	190	206	222	238
	45	141	158	176	194	211	229	246	264
	40	158	178	198	218	238	257	277	297
7	80	92	104	116	127	139	150	162	173
	70	106	119	132	145	158	172	185	198
	60	123	139	154	169	185	200	216	231
	55	134	151	168	185	202	218	235	252
	50	148	166	185	203	222	240	259	277
	45	164	185	205	226	246	267	287	308
	40	185	208	231	254	277	300	323	347
8	80	106	119	132	145	158	172	185	198
	70	121	136	151	166	181	196	211	226
	60	141	158	176	194	211	229	246	264
	55	154	173	192	211	230	250	269	288
	50	169	190	211	232	253	275	296	317
	45	188	211	235	258	282	305	329	352
	40	211	238	264	290	317	343	370	396
10	80	132	149	165	182	198	215	231	248
	70	151	170	189	207	226	245	264	283
	60	176	198	220	242	264	286	308	330
	55	192	216	240	264	288	312	336	360
	50	211	238	264	290	317	343	370	396
	45	235	264	293	323	352	381	411	440
	40	264	297	330	363	396	429	462	495

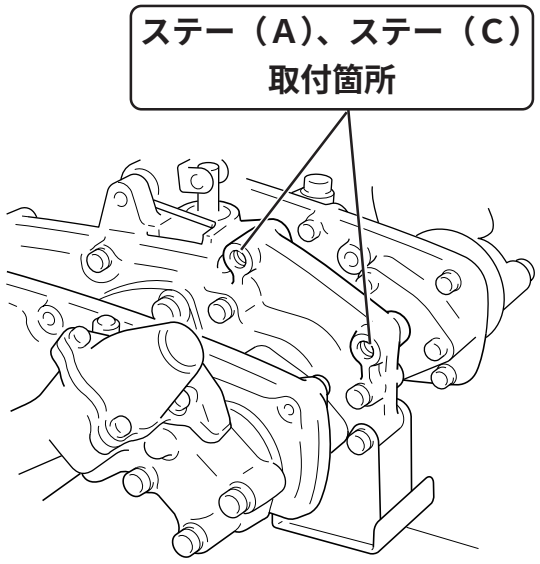
取　付　作　業

取付準備

・取付作業を始める前に、植付部クランクケースの取付用ネジ穴および貫通穴を確認してください。

・貫通穴やネジ穴が泥などで詰まっている場合は、ブラシなどで充分に清掃してください。

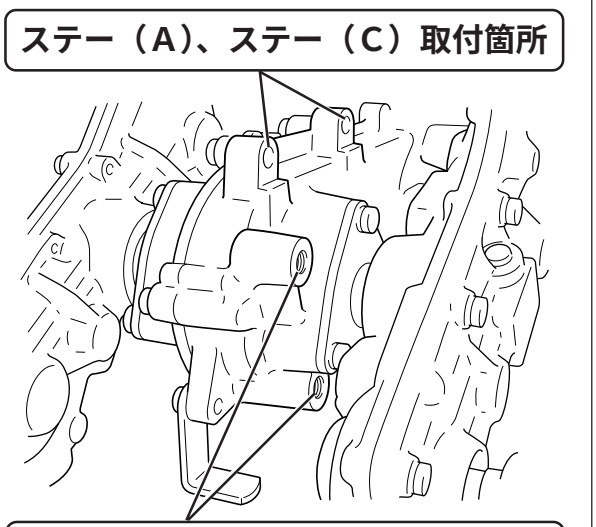
ヤンマータイプ



ボルト（M８×４０）

GS1-51

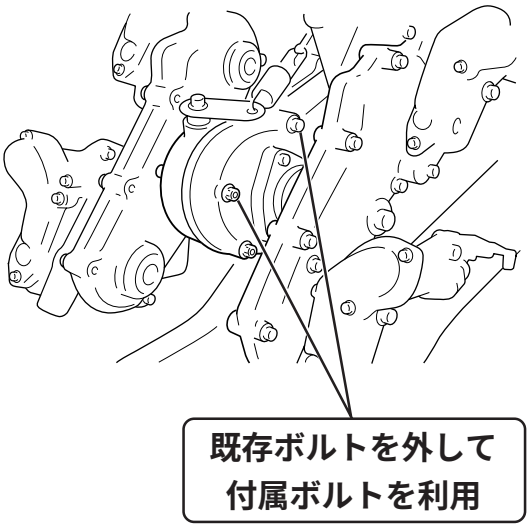
クボタタイプ



ボルト（M８×２０）

GS1-52

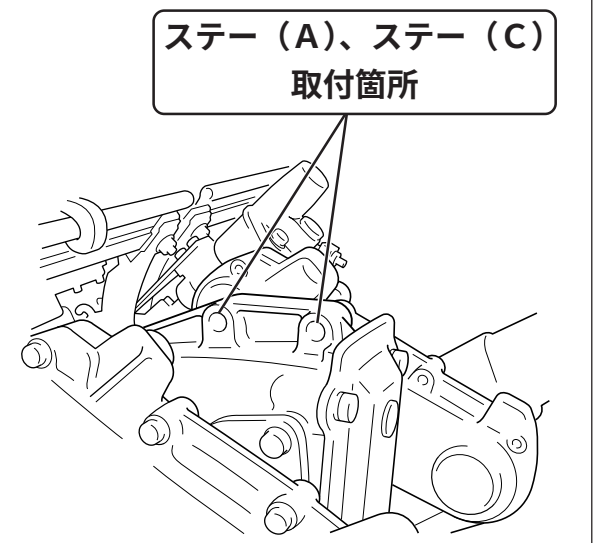
三菱タイプ
（貫通穴型もあります）



ボルト・ナット
（M６×６５）

GS1-53

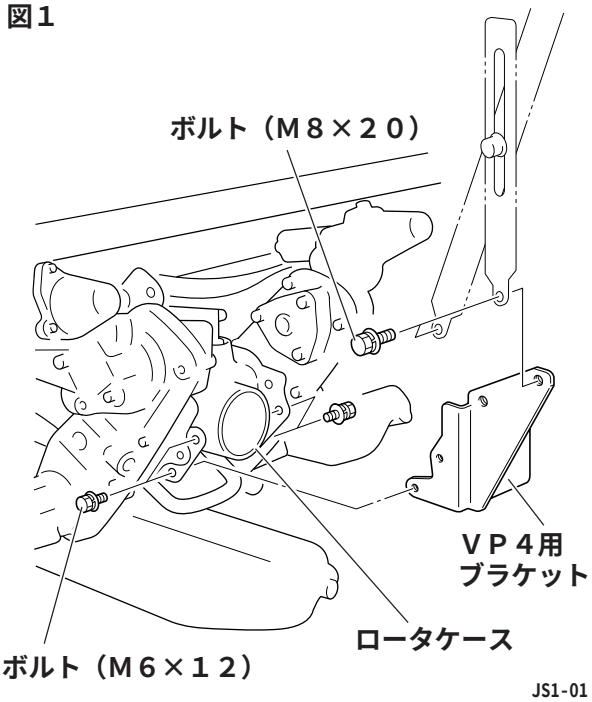
イセキタイプ



ボルト・ナット
（M８×５０）

GS1-54

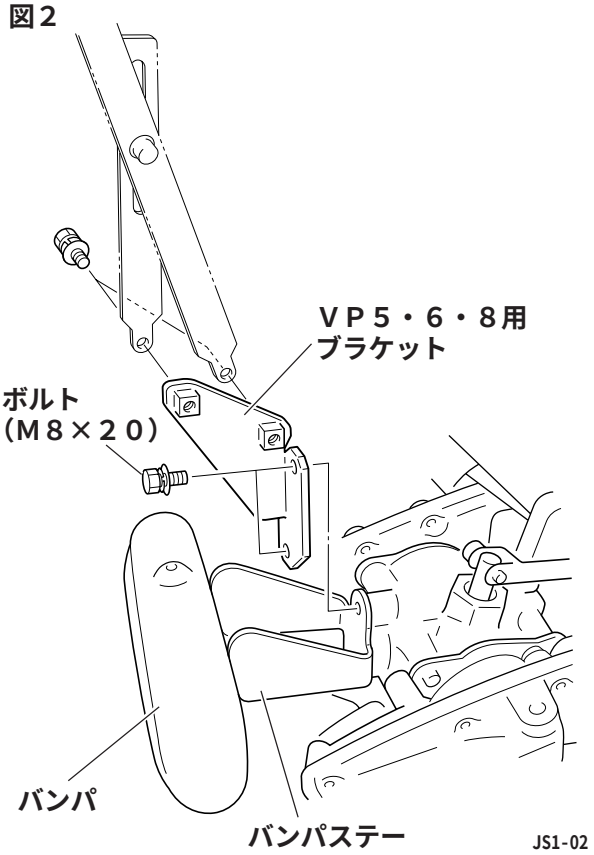
図１



ヤンマー VP4；ブラケットの組付（オプション）

1. エンジンを始動して、植付部を最上げ状態にします。
2. 油圧ストップレバーを「油圧ストップ」位置にします。
3. キースイッチを「切」位置にして、エンジンを停止させます。
4. 植付クラッチレバー(またはフリーモードシフトレバー、ニュースーパシフトレバー）を「植付」位置にします。
5. 株数変速レバーを「中立」位置にします。
6. ロータケースを手で左図の位置まで回します。
7. ＶＰ４用ブラケットをボルトで組付けます。
8. 株数変速レバーをもとの位置に戻します。
9. 植付クラッチレバー(またはフリーモードシフトレバー、ニュースーパシフトレバー）を「油圧中立」の位置にします。
10. エンジンを始動し、植付アームを上部停止位置で停止させます。
11. キースイッチを「切」位置にして、エンジンを停止させます。

図２



ヤンマー VP5，6，８；ブラケットの組付（オプション）

1. エンジンを始動して、植付部を最上げ状態にします。
2. 油圧ストップレバーを「油圧ストップ」位置にします。
3. キースイッチを「切」位置にして、エンジンを停止させます。
4. バンパステーの取付ボルトを外し、ＶＰ５・６・８用ブラケットをバンパステーと共締めにします。

図1

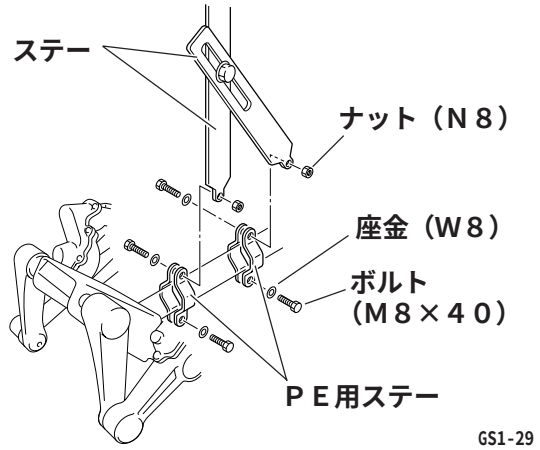


図2

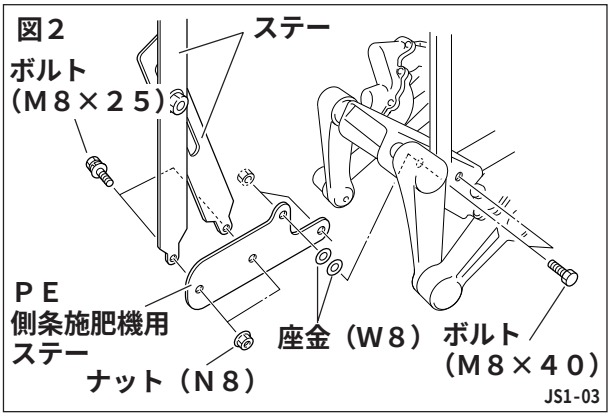
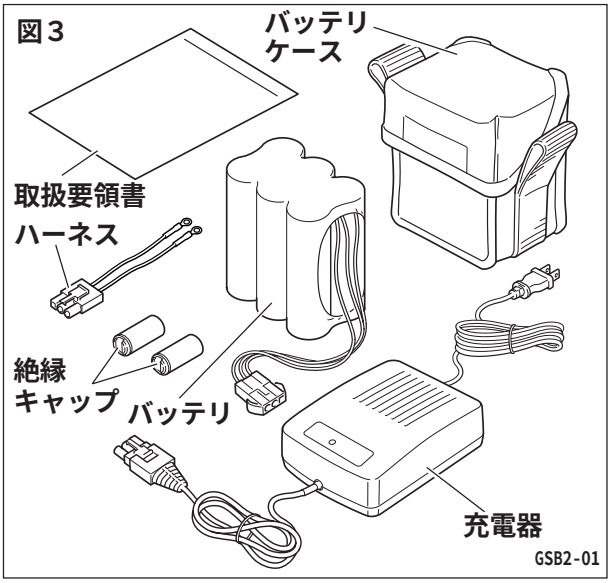


図3



重　要

・一度満充電しても長期間（３ヶ月以上）ご使用にならなかったときや、使用回数が多く充電量が不足したときなどには、再度充電してください。
・長期間使用していると、バッテリを充電してもすぐ充電が必要になる場合があります。
そのときは、バッテリの寿命ですので新しいバッテリと交換してください。
・充電中は充電器およびバッテリが多少熱を持ちますが異常ではありません。
充電中は充電器の赤ランプが点灯し、充電中であることを示します。

ヤンマー PE；ＰＥ用ステーの組付（オプション）

1. ＰＥ用ステーをクランクケース支え部に左図のようにボルトで固定します。このとき、取付けた２ヶ所のステーは、一直線上にあるようにします。また、ステーの間隔は他方のクランクケース部へ取付けたものと同等にします。
2. 散布機本体を載せるためのステーを左図のようにナットで固定します。

ヤンマー PE；ＰＥ側条施肥機用ステーの組付（オプション）

1. 側条施肥機を取付けているボルトをＭ８×４０に交換し、ＰＥ側条施肥機用ステーをナットで共締めします。
2. 散布機本体を載せるためのステーをボルト・ナットで固定します。

GSB2；バッテリキット（オプション）

バッテリの取扱い

⚠ 警　告

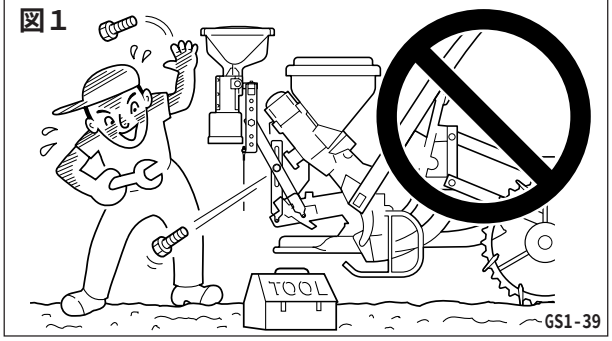
・バッテリの取扱いは、水濡れや衝撃などに充分注意してください。
・付属のバッテリは本機専用ですので、他の用途には使用しないでください。
・バッテリを改造、分解しないでください。引火爆発や感電の原因となる恐れがあります。
・バッテリの充電は、付属の充電器を使用して、正しく行なってください。他の充電器（特に自動車用）を使用すると、バッテリの破損や事故の原因となります。
・バッテリを火の中へ絶対に投げ込まないでください。破裂する恐れがあります。
・バッテリのコードは金属部分に近づけないようにして確実に固定してください。接触（ショート）すると引火爆発や火災の原因となる恐れがあります。
・バッテリのコードは強く引っ張らないでください。
・バッテリの上には、物を置かないでください。

重　要

・バッテリが放電し、始動ができなくなった場合は充電器で充電をしてください。
・充電は温度の高い場所や湿度の高い場所ではしないでください。
・２４時間以上の長時間充電はしないでください。バッテリの寿命が短くなります。

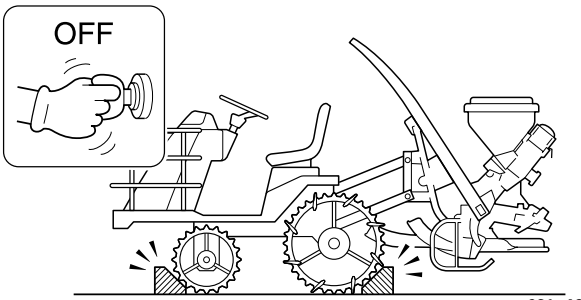
・バッテリの配線、設置および充電は、キットの取扱要領書に従ってください。

図１



・機械を改造してはいけません。
・整備不良の機械は、危険ですので使用しないでください。

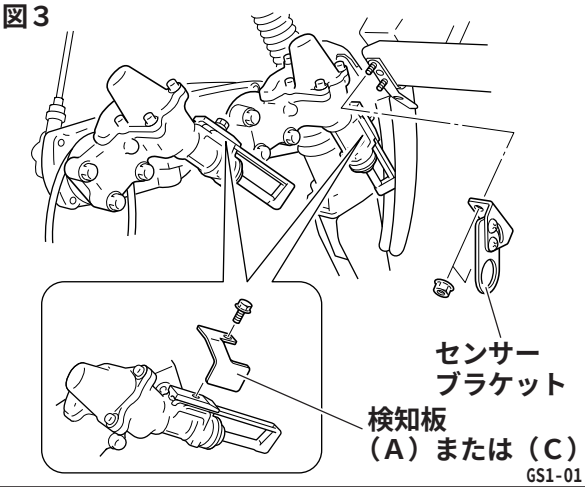
図２



⚠ 警　告

取付作業をするときは、必ず田植機のエンジンを停止し、堅牢な地面上で田植機に車輪止めをして行なってください。

図３



磁気センサーの取付

1. センサーブラケットを組付けます。
センサーブラケットの取付条については任意ですが、大型田植機などで苗のせ台が折りたたみ式となっている機種は、固定側の苗のせ台の条の部分に取付けてください。

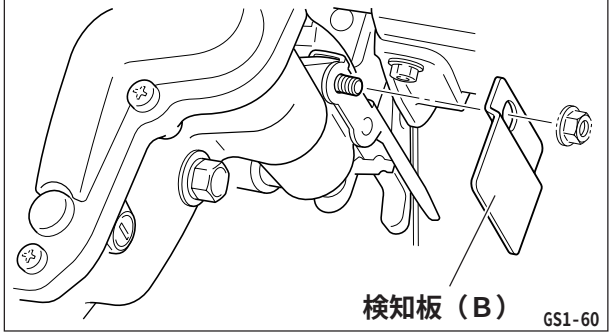
2. 植付爪ガイドを固定しているボルトを利用して、センサーブラケットを固定します。
センサーブラケットを固定するボルトが１本のときは、付属の歯付座金を使用してください。

3. 植付爪を固定しているボルトを利用するなどして、図３に示す両方の爪に検知板を取付けます。
検知板は３種類同梱されています。取付けるときは植付爪の形状や試運転時の状況により、左表を参考にして適切な物を選んで取付けてください。
検知板はセンサー取付条の全ての植付爪に取付けてください。ロータリー式の場合は２ヶ、クランク式は１ヶ取付けます。

●検知板適合表

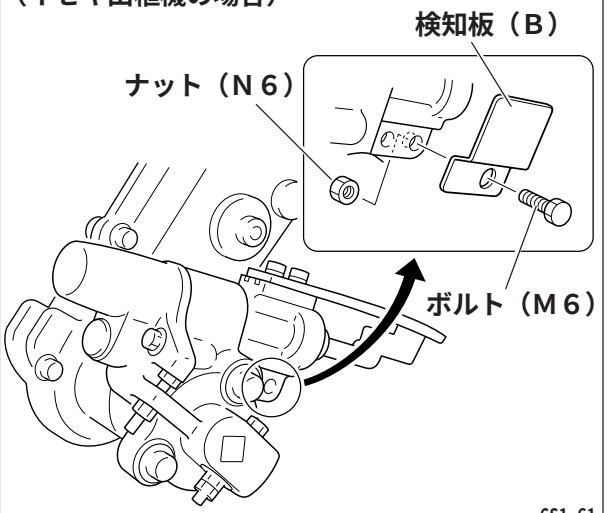
	適合田植機
検知板（A）	ヤンマー・三菱・イセキ
検知板（B）	三菱・イセキ
検知板（C） ＜幅広タイプ＞	クボタ

図４
（三菱田植機の場合）



1）検知板（B）の取付（三菱田植機の場合）
植付爪を横から固定している機種は、検知板（B）を図４の向きで取付けます。

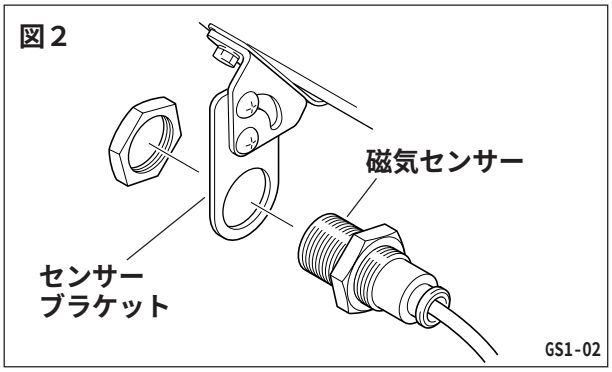
図１
（イセキ田植機の場合）



2) 検知板（Ｂ）の取付（イセキ田植機の場合）
植付アームの下側に図１のような穴が開いている場合、Ｍ６のボルト・ナットを用意して取付けます。（図１参照）
※イセキ田植機の場合、検知板は（Ａ）、（Ｂ）の２種類どちらでも使用できます。
機種によっては、植付爪を固定しているボルトが十字頭のビスの場合がありますので、その場合には検知板（Ｂ）を使用してください。

3) 検知板（Ｃ）＜幅広タイプ＞は、クボタ田植機に取付けます。取付けは１５ページの図３を参照してください。

図２

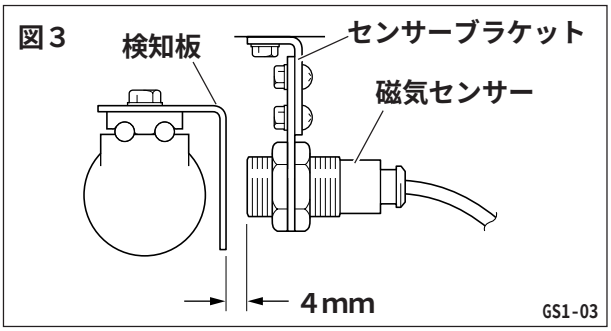


4. センサーブラケットに磁気センサーを固定します。

重　要

- 磁気センサーと検知板の距離が４mmになるように調整してください。
- 植付爪の回転軌道上に磁気センサーがくるようにセンサーブラケットの角度を調整してください。
- 磁気センサー取付後、爪を手で回して検知板やセンサーなどが田植機の部品と干渉していないことを確認してください。
- 側条施肥機付の場合は、磁気センサーやセンサーブラケットなどが側条施肥機のパイプと当たらないことを確認してください。

図３

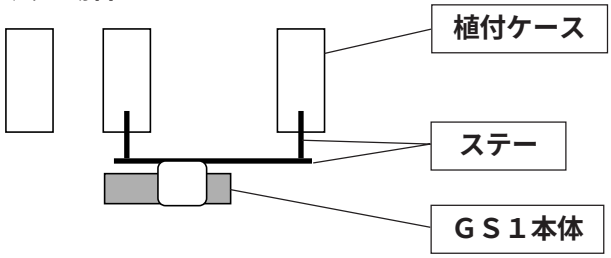


5. 取付・調整が終ったら、手動で植付ユニットを動かし、磁気センサーおよびセンサーブラケットが植付ユニットと接触しないことを確認してください。

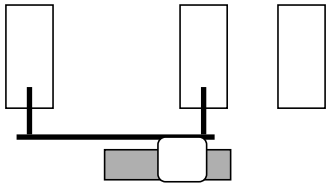
ステーの取付

取付例（植付部全体を上方向から見たときの略図です。４条は省略しています。）

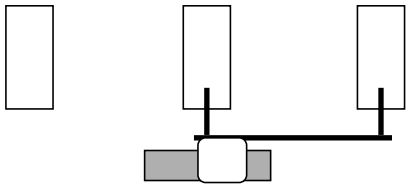
① ５条で右が広い場合



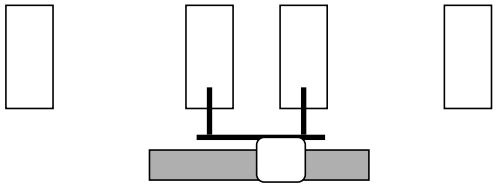
② ５条で左が広い場合



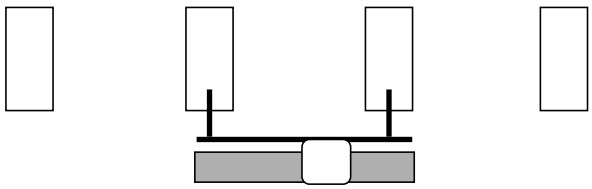
③ ６条の場合



④ ７条の場合……ステー（Ｄ）のみ、交換が必要となります。（部品番号：Ｃ５１９－００１３５０）



⑤ ８条の場合



⑥ １０条の場合（苗のせ台を収納せず、オプションステーも使用しない場合）

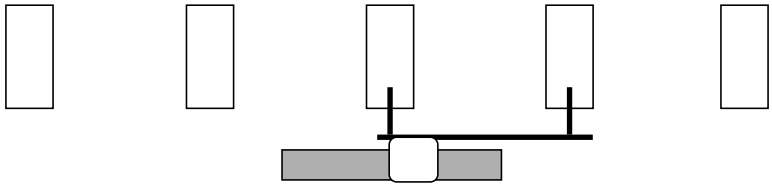
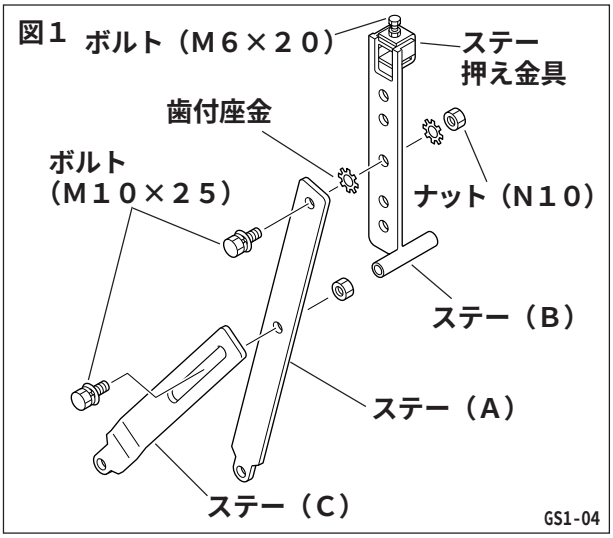


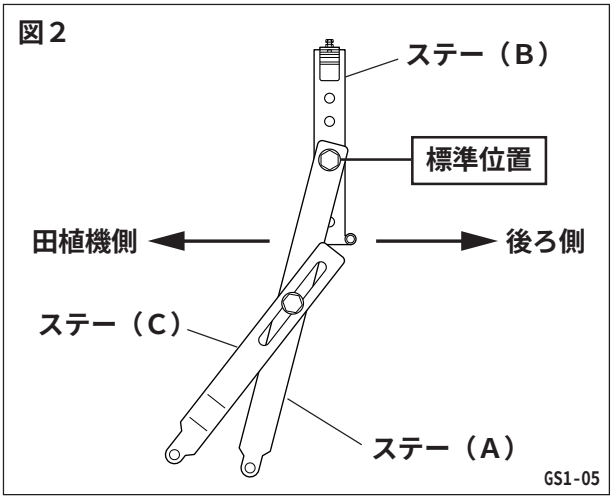
図１



標準的な取付方法

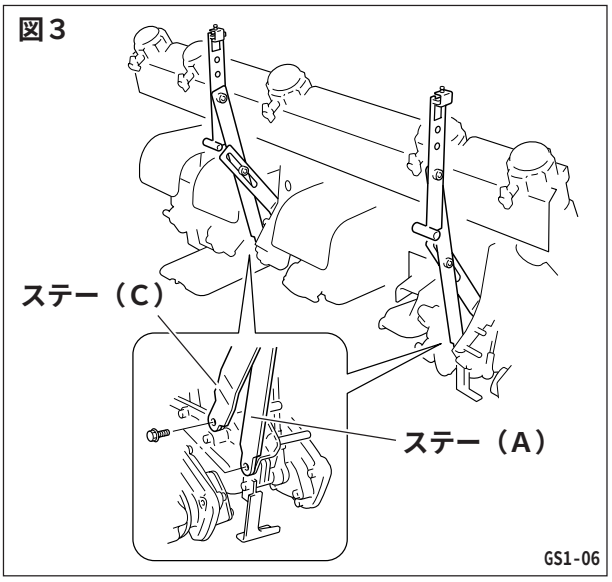
1. ステー（Ｂ）にステー押え金具をボルトで仮止めしておきます。
2. 左図のようにステーを組付けます。
   （２組とも同じ向きで組付けます。）
3. 歯付座金は、ステー（Ａ）とステー（Ｂ）の間に一枚、ナット側に一枚締付けます。

図２



4. ステーの高さ調整は、ステー（Ｂ）の中央穴が標準位置です。

図３

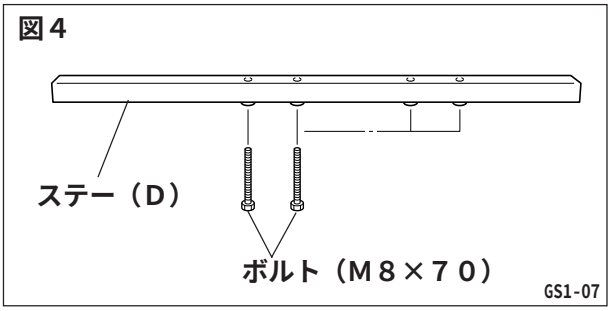


5. 植付部クランクケースの貫通穴、もしくは側条施肥機の取付穴を利用して、ステー（Ａ）、ステー（Ｃ）を取付けます。
   ※側条施肥機付の場合は、ステー（Ａ）、ステー（Ｃ）は側条施肥機のステーと共締めで取付けます。

重　要

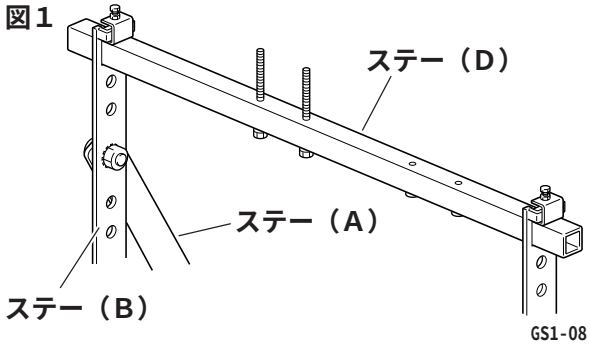
側条施肥機付の場合、ステー（Ｃ）はしならせて取付けます。座金などで浮かせますと回転部分に接触する可能性があります。

図４



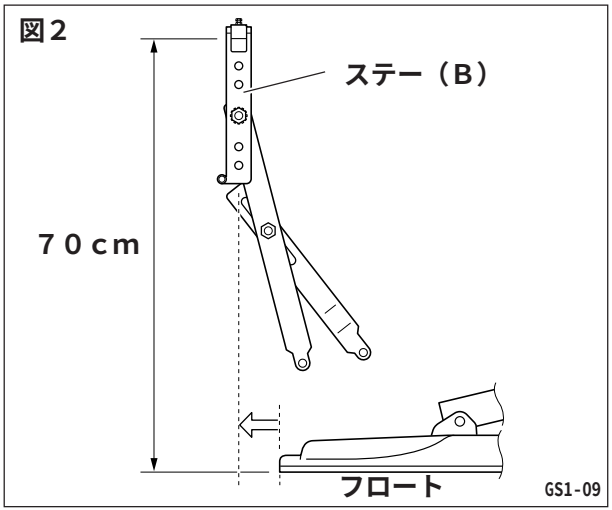
6. ステー（Ｄ）にボルト２本を締込みます。
   ※散布機が田植機の中心にくるように、左右どちらかの穴を使用します。
   また、ステー（Ｄ）を左右反対に使用する場合もあります。

図１



7. ステー（B）にステー（D）を組付けます。
このときステー(D)がフロート後端よりも後ろにくるようにステー（A）の角度を調整します。
(図２参照)

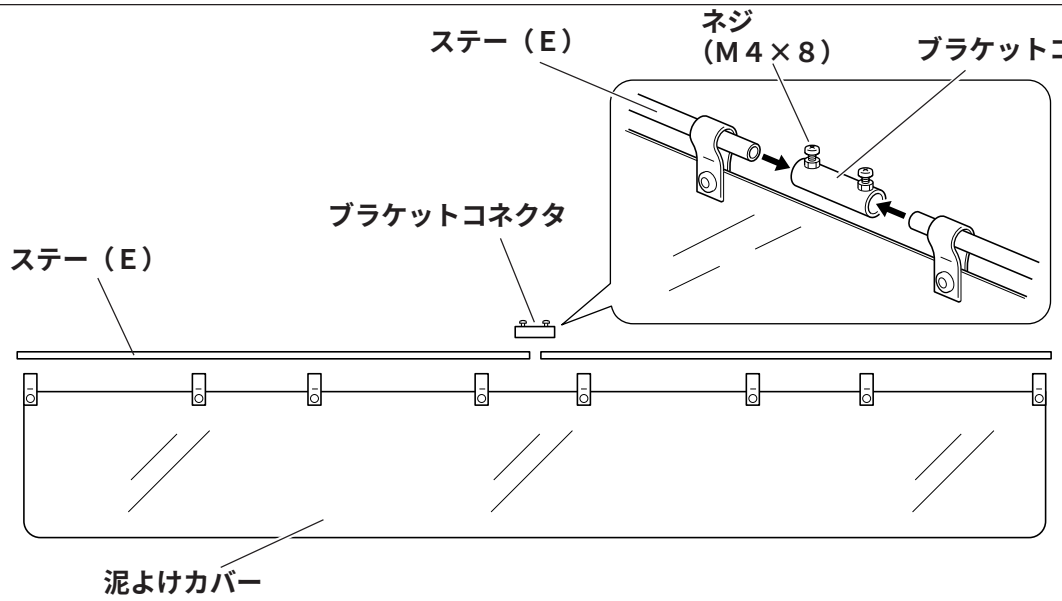
図２



8. フロートとステー（D）の距離は、７０ｃｍが標準高さです。（±３ｃｍは許容範囲）
これ以上高くなると散布幅が広がり、低くなると散布幅は狭まります。ステー（B）の取付位置により調整してください。
また、泥よけカバーを取付けたときに、カバーが植付部と接触する場合には、ステー（B）を取付穴ひとつ分上げてください。

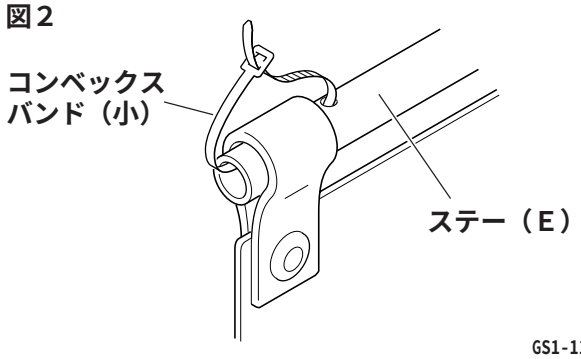
泥よけカバーの取付

図１



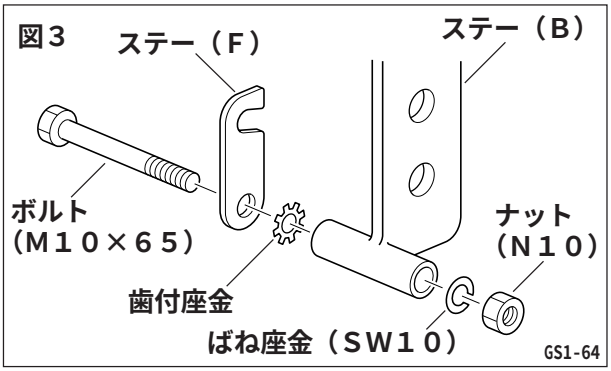
GS1-65

図２



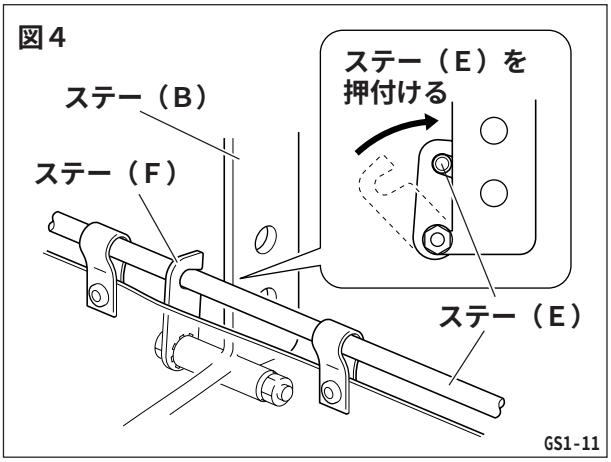
GS1-11

図３



GS1-64

図４



GS1-11

1. 泥よけカバー、ブラケットコネクタにステー（E）を通します。
2. ステー（E）の端部をコンベックスバンド（小）で固定します。（図２参照）
3. ステー（E）を左右方向に動かし、泥よけカバーのたるみがなくなったところで、ブラケットコネクタのネジを締めてステー（E）を固定します。
4. ステー（F）はステー（B）に図３のように仮組みし、ナットは手で締める程度にしておきます。（左右とも、仮組みします。）
   ※ステー（F）の取付位置は、ステー（B）の左右どちらでもかまいません。
5. ステー（F）の溝に組立てた泥よけカバーのステー（E）部を引っ掛け、ステー（E）をステー（B）に押付けるようにして、ステー（F）を固定します。泥よけカバー取付後、ステー（E）が動かないことを確認してください。

重　要

- 泥よけカバーが散布カバーの下に入らないように泥よけカバーの“折グセ”をとってから取付けてください。
- ブラケットコネクタができるかぎり田植機の中心になるように取付けてください。

散布カバーの設定（*GS1*）

出荷時には、散布カバーは６条用の状態（右表参照）で組立ててあります。
田植機の条数に応じて、フラップ板と整流板の設定をしてください。

	フラップ板	整流板
４条	○	×
５条	○	○
６条	×	○

注）○……必要　×……不要

フラップ板の取付

- フラップ板の表、裏を使い分け傾斜角を変えることにより、４条用、５条用に対応できます。
- フラップ板を取付けるときは、ストッパにしっかり押し当ててからネジで固定します。

図１

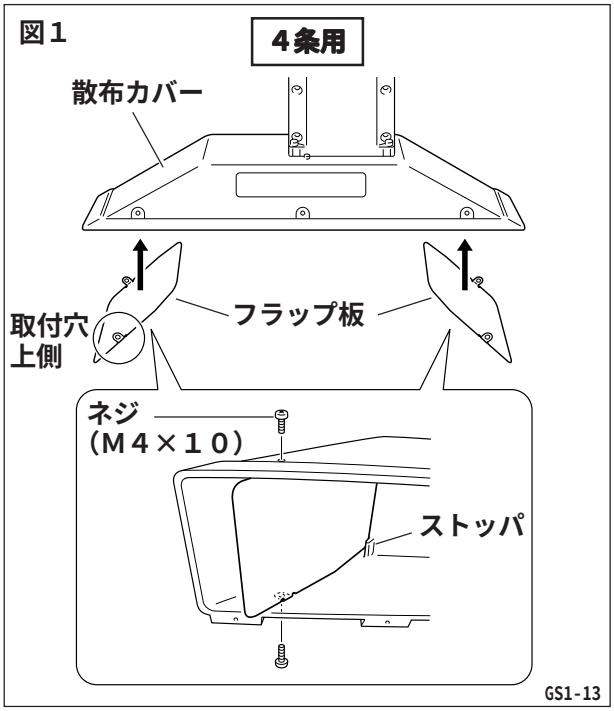
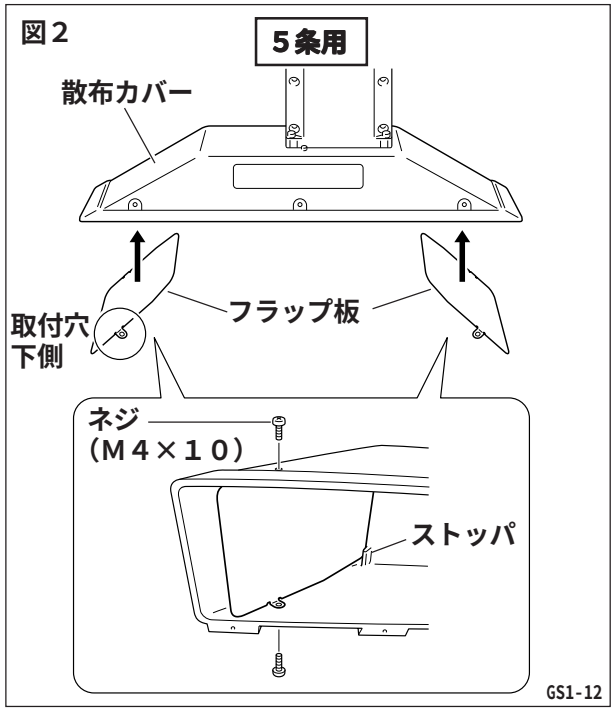


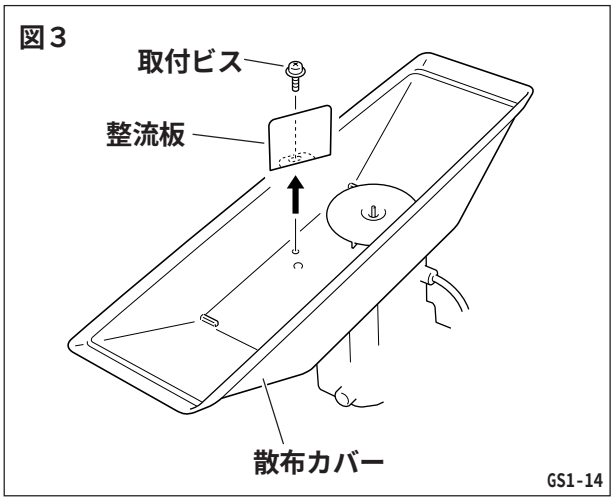
図２



整流板の取付・取外し

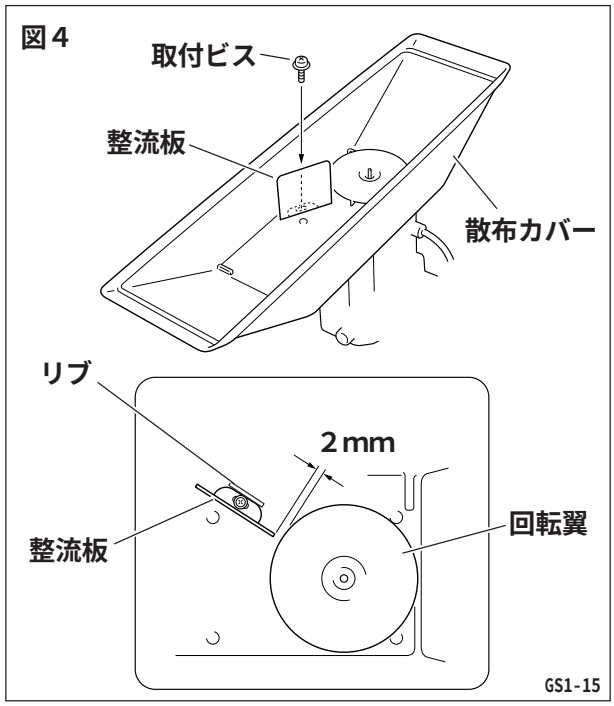
- 取付ビスを外して整流板を取外し、取付ビスは再び付けておきます。

図３



- 万一、取外した整流板を再び取付けるときは、散布カバーのリブに整流板を押し当て、取付角度を決め固定します。このとき、整流板と回転翼の隙間が２mm程度になるように調整します。

図４



散布カバーの設定（*GS1W*）

出荷時には、散布カバーは８条用の状態で組立ててあります。
田植機の条数に応じて、散布カバー両端のガイド部分を左図のように調整してください。
（使用ネジ：Ｍ４×１０、ナット：Ｎ４）

図１

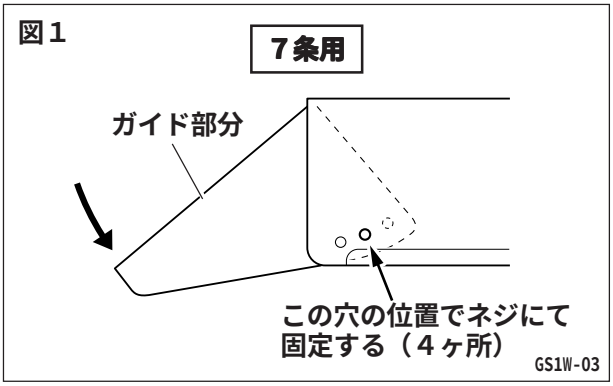


図２

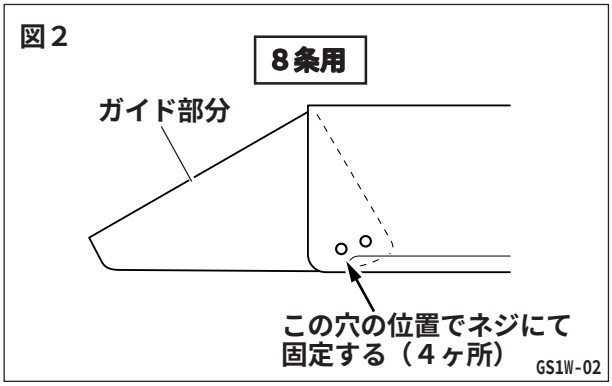
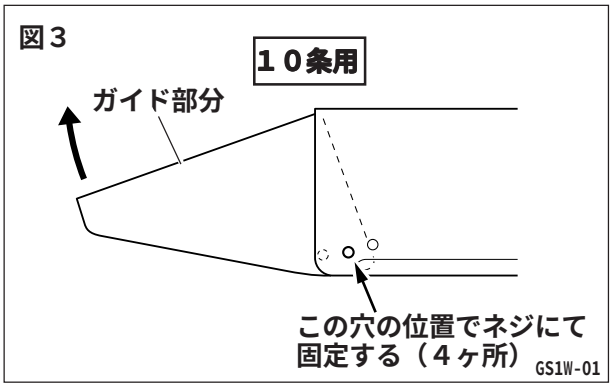


図３



散布機の装着、調整

散布機の装着

・ 散布機本体をステー（Ｄ）にノブで固定します。

図４

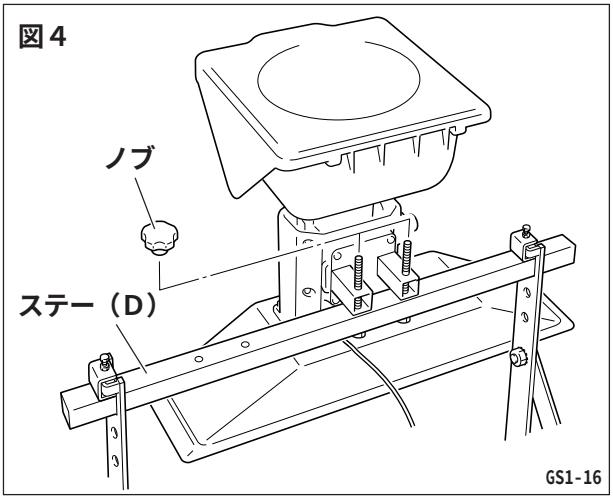
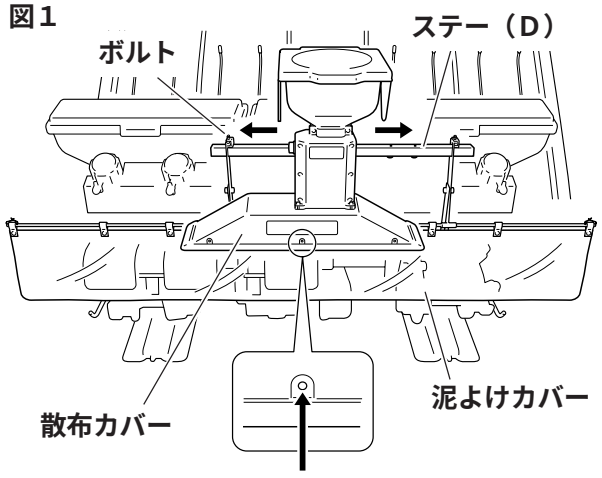


図１



GS1-17

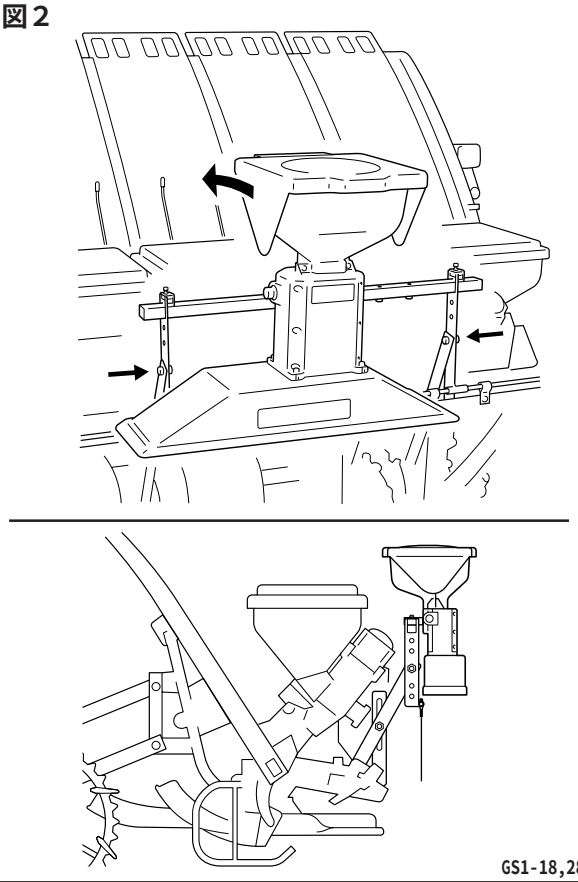
散布機の調整

1. ステー（D）を移動させ、散布カバーの中心と田植機の中心が一致するような位置でボルトを固定します。

重　要

散布カバーの中心が田植機の中心になるように取付けを調整してください。

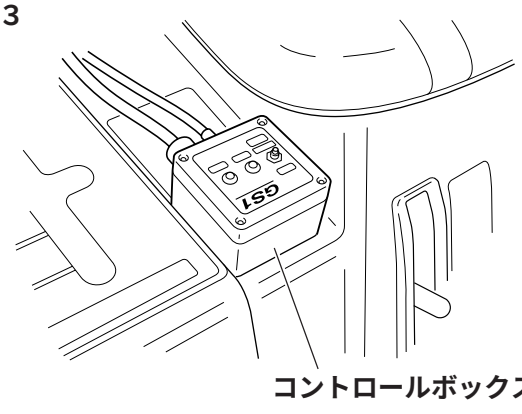
図２



GS1-18,28

2. 植付部を実際に植付を行なう高さに設定したとき、散布機の傾きが垂直になるように角度を調整してください。

図３



GS1-19

コントロールボックスの取付

1. コントロールボックスを操作しやすい場所に設置します。
2. 付属のマジックテープで固定します。

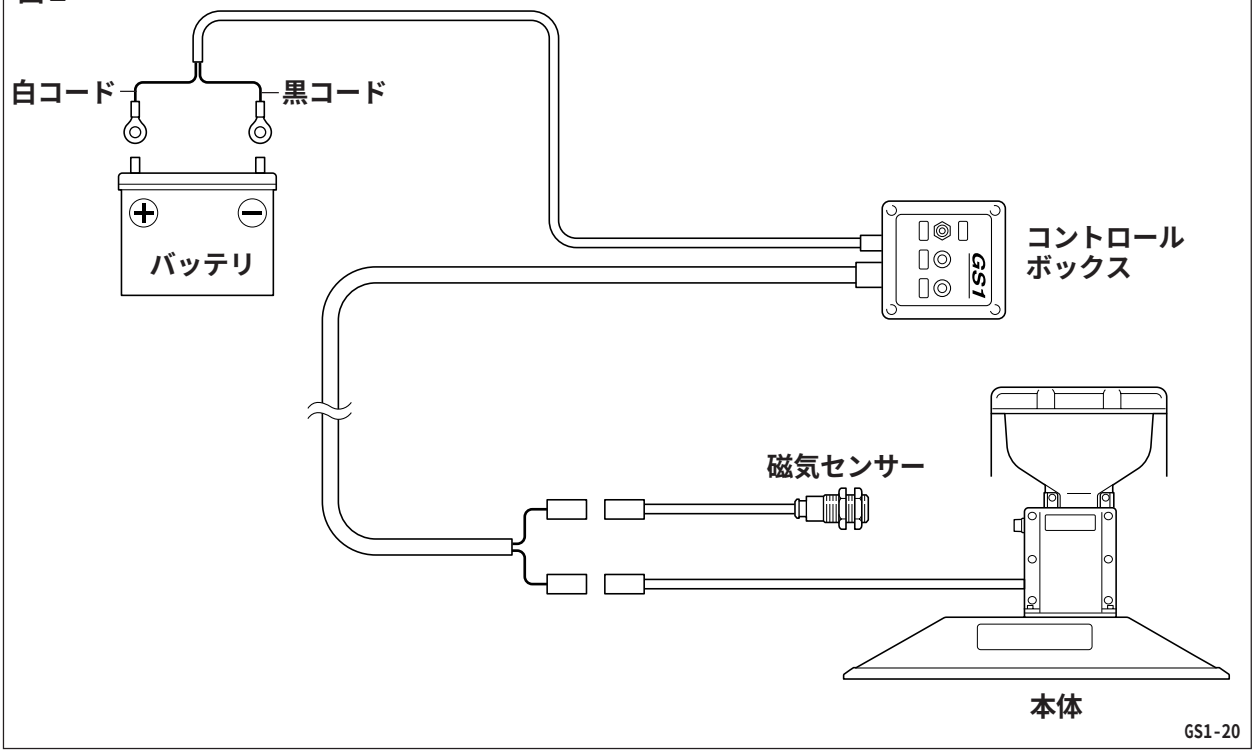
重　要

- ハーネスを取付けるときは、田植機フレームの鋭利な箇所や高温部、可動部分に接触しないよう確実に固定してください。
- ハーネスが傷付く恐れのある場合には、保護チューブなどを使用してください。
- バッテリにコードを接続するときは、最初にプラス⊕端子、次にマイナス⊖端子の順に接続します。（外すときは逆にマイナス⊖、プラス⊕の順に外します。）
- バッテリを搭載していない田植機の場合には、必ずオプションのバッテリーキット（***GSB2***）を使用してください。市販のバッテリを使用した場合には、不具合が出る場合があります。

バッテリの接続、配線

1. コントロールボックスから出ているバッテリハーネス（丸端子付２芯ケーブル）を田植機のバッテリまではわせます。
2. バッテリハーネスにはプラス⊕（白コード）、マイナス⊖（黒コード）があります。プラス⊕のコードは、バッテリのプラス⊕端子へ、マイナス⊖のコードはマイナス⊖の端子へ接続します。
3. コントロールボックスからの残りのハーネスをステー（D）上の端まで、田植機の可動部分に注意しながら配線します。
4. 同様に磁気センサーのハーネスをステー（D）上の端まで配線します。
5. 配線したハーネスは、付属のコンベックスバンド（大）とクリップを使用して田植機に固定します。
6. 余ったハーネスは、作業のじゃまにならないよう適宜まとめておきます。

図１



重　要

低速運転時に散布ランプ（緑）が植付け３回に１回点滅せずに、

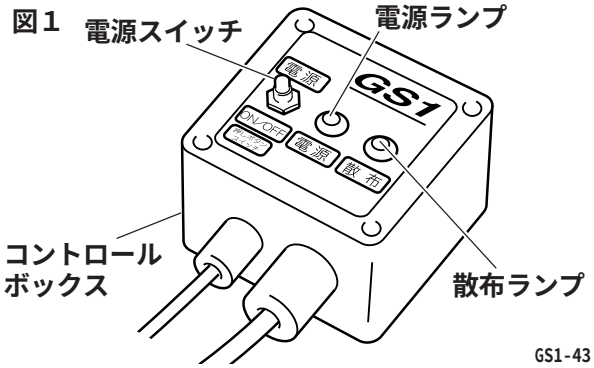
1）散布タイミングがおかしい(3回に1回でない)。
2）散布ランプが点灯したままである。
3）植付爪が動いていないときに散布ランプが点滅する。

などの場合には、エンジンのスパークプラグからのノイズにより、コントロールボックスが誤作動しています。

誤作動する場合には、スパークプラグを抵抗入りに交換してください。

例：ＮＧＫプラグ　ＢＰ６ＥＳ → ＢＰＲ６ＥＳ
（Ｒが付くと抵抗入りです。）

図１



(注　意)
コントロールボックスの電源スイッチは、押しボタン式です。電源のＯＮとＯＦＦは、電源ランプの点灯と消灯で確認します。

電源ランプ（赤）が消灯のとき…
１回押すと ＯＮ ＜電源ランプ（赤）点灯＞
↓
＜散布作業時：散布ランプ（緑）点滅＞
↓
再度押すと ＯＦＦ ＜電源ランプ（赤）消灯＞

試運転

1. 手動で植付ユニットを動かし、磁気センサーおよびセンサーブラケットが植付ユニットと接触しないことを確認してください。
2. 配線ハーネスが田植機の回転部分や可動部分に接触していないことを確認してください。
3. 苗のせ台を昇降させても、配線ケーブルがつっぱらないように、昇降リンク近辺には充分な余裕があるか確認してください。
4. 田植機を緊急停止できる状態で、植付部を最低速にして作動させながら確認してください。

- 磁気センサー部の部品が他と干渉していないこと。
- 配線ハーネスに余分なたるみやひっかかりがないこと。
- **散布機コントロールボックスの電源スイッチを押して「ＯＮ」にしたとき、**
  - **― 電源ランプ（赤）が点灯すること。**
  - **― 散布ランプ（緑）が植付け３回に１回点滅すること。**
  - **― 磁気センサーのＬＥＤランプ（赤）が点滅すること。**
  - **― 散布カバー内の回転翼が回転すること。**
  - **― 内部ソレノイドの作動音がすること。**

正しい作業のために

⚠ 警　告

- 機械が不適切に使われたり、あるいは使用上の注意を守らないと、重大事故を起こす可能性があります。
- 使用する薬剤に直接触れることを避けてください。
- 機械を運転するときは、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。

⚠ 注　意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。本機の知識を持たない人や子供などには使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないでください。

図１

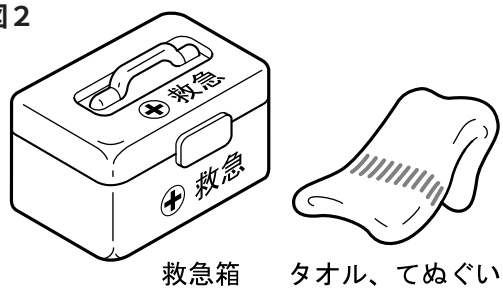


HT100-06

作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、作業中に疲れた場合は作業を中断し休憩してください。気分の悪さや疲れが続くようでしたら、医師に相談してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 妊娠している人、運転が未熟な人、負傷中などで薬剤の影響を受けやすい人は機械を操作しないでください。また薬剤に触れないでください。

図２



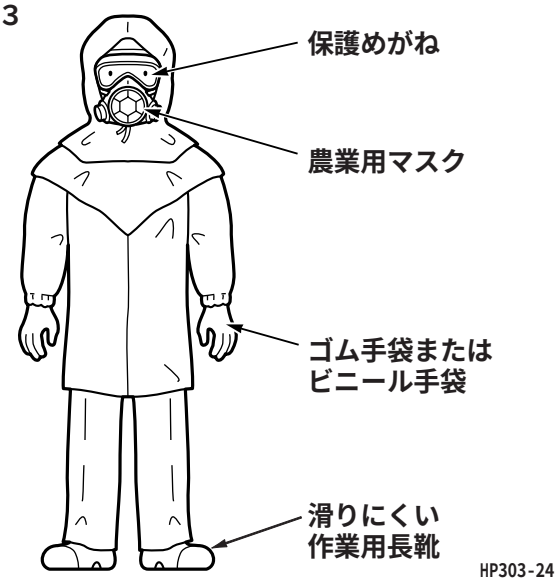
救急箱　　タオル、てぬぐい

HT100-27

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

図３



HP303-24

保護具

- 滑りにくい作業用長靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 薬剤を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、薬剤が皮ふに触れないようにしてください。
- 薬剤が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性の良い衣服を身に付けてください。

図１

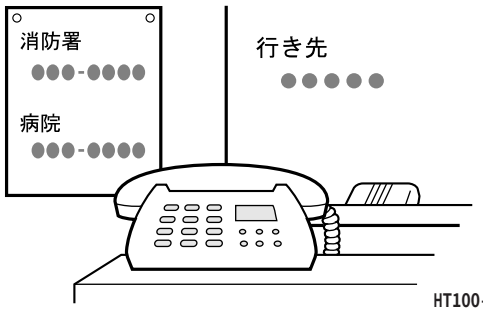
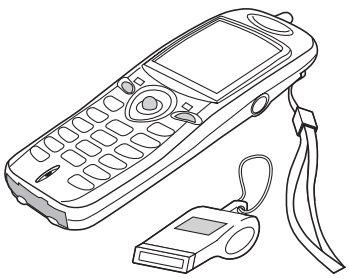


図２

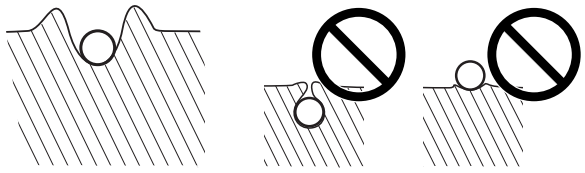


重　要

植付、薬剤散布終了後に、圃場の表面が露出するような浅水状態では、除草効果の低下が起こる場合がありますので、水管理に注意してください。

図３

圃場の硬さの目安



身体の保護のためのその他の事項

- 保護用の衣類は汗をかき、疲労を増します。
  気温が高いときは作業を中止し気温が下がってから作業をしてください。
- 万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
  特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
- 単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。
  負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。
- 作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

圃場

除草剤の効果を充分に得るために以下のことに注意してください。

代かき

植付時、浅水にしたとき田面が露出しないよう、代かきは表面の凹凸がないように均平に整地してください。代かきから田植えまでの日数をあまりあけないようにしてください。

圃場の硬さ

圃場が硬すぎる場合、植付穴ができてその中に薬剤が入り込み、薬害が発生することがあります。
また、逆に圃場が軟かすぎる場合は、泥水により薬剤が移動し、充分な効果が得られない場合があります。
土のかたまり（ゴルフボール大）を表面より高さ１ｍから落としたとき、図３の「適正」な状態になるのが植付作業に最適な硬さです。

水管理

田面が露出しないように浅水で水深を一定にし、田植え後の水入れは、散布した薬剤が移動しないようにゆっくりと行なってください。
なお、散布後数日は、湛水状態に保ち、田面を露出したり、水をきらさないようにし、かけ流しはさけてください。

植付深さ

浮苗、浅植えがないように適正な植付深さにしてください。

苗について

軟弱従長苗や老化苗は、薬害が発生することがありますので、健苗を使用してください。

その他

薬剤散布後、水に溶けた薬の成分が風の影響で風下に偏ることにより、除草効果が充分に得られないことがあります。

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

・散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。農薬に直接触れないよう注意してください。
・作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
・農薬が目に入らないように注意してください。
・誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
・また、農薬の種類によっては、
　☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
　☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
・環境へ配慮した使用が必要です。
　☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
・農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。

薬剤

重　要

・田植同時散布が可能な薬剤のみを使用してください。
・薬剤の選定にあたっては、各県の指導方針に適した薬剤を使用してください。
・薬剤の形状は、粒状のものを使用してください。
・使用する薬剤は、開封していない新しい物を使用してください。吸湿したり、長期保存した薬剤を使用すると目詰まりの原因となります。
・正しい使用量を厳守してください。
・作業前に試しまきをして、散布量の確認をしてください。
・薬剤に石、金属片など異物が混入していないことを確認してください。
・散布後の残った薬剤は、必ず他の容器に移し替えて保管してください。残したままにすると、機械の故障の原因となります。

・農薬ラベルをよく読んでください。
・本機や薬剤に関する知識を持たない人や、子供などには取扱わせないでください。

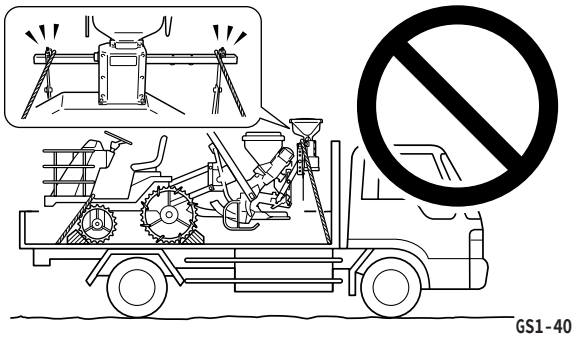
●***GS1, GS1W***で使用できる除草剤（田植同時処理可能薬剤）　（2003 年 12 月現在）

区　分	薬　剤　名	処理量（／１０ａ）
初期剤	ベクサー１キロ粒剤	１ｋｇ
	パデホープ１キロ粒剤	１ｋｇ
初期一発剤	ザ・ワン１キロ粒剤	１ｋｇ
	ライザー１キロ粒剤２０	１ｋｇ
	ユートピア１キロ粒剤	１ｋｇ
	イノーバ１キロ粒剤（５１，７５）	１ｋｇ
	スターボ１キロ粒剤	１ｋｇ
	スラッシャ１キロ粒剤	１ｋｇ
	ビッグシュア１キロ粒剤	１ｋｇ
初中期一発剤	ウルフエース１キロ粒剤（５１，７５）	１ｋｇ
	トレディプラス１キロ粒剤５１	１ｋｇ
	イノーバＤＸ１キロ粒剤（５１，７５）	１ｋｇ
	ダブルスター１キロ粒剤	１ｋｇ
	ドニチ１キロ粒剤	１ｋｇ

※ 薬剤の選定については、移植直後から使用できる初期剤、初期一発剤、初中期一発剤が対象となります。上表に記載以外の薬剤を使用するときは、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

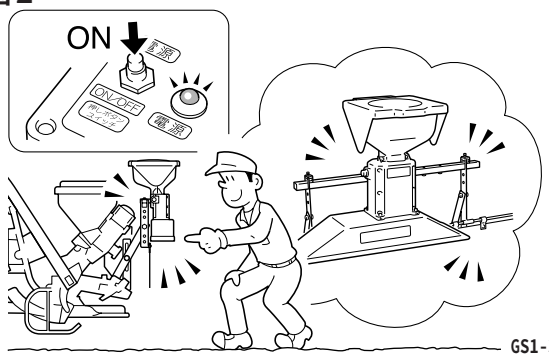
散　布　作　業

図１



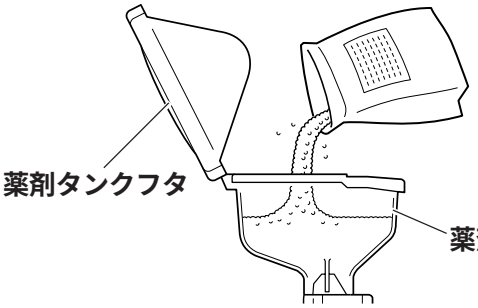
GS1-40

図２



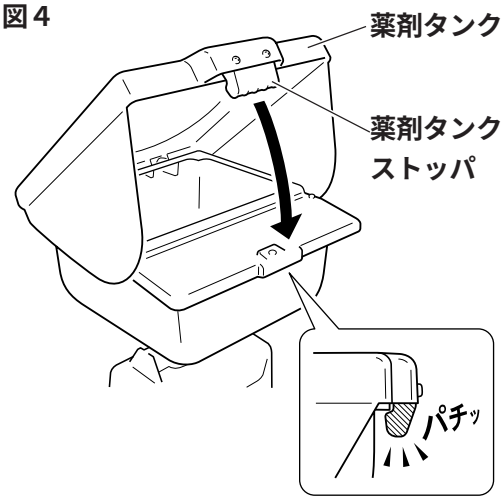
GS1-31

図３



GS1-33

図４



GS1-67

作業前の準備

搬送・移動

- 薬剤タンク内はカラにしてください。
- 薬剤タンクフタは確実に締めてください。
- トラックなどに載せて移動するときは、散布機の取付フレームなどには絶対にロープ掛けしないでください。
- 高速走行時は、薬剤タンクフタが外れる恐れがありますので、散布機にシートなどを掛けて搬送してください。

各部の点検

- 各部品がきちんと取付けられているか確認してください。
- 配線が可動部分に干渉をしていないか点検してください。
- コントロールボックスの電源スイッチを押して「ＯＮ」にし、電源ランプ（赤）が点灯するか確認してください。

薬剤の補給

重　要

- 薬剤タンク内部が濡れたり、泥で汚れたりしないようにしてください。
  雨天作業時には、薬剤タンクフタを半開の状態で使用し、雨の侵入を防ぐようにしてください。
- 散布カバー内および回転翼は、濡れないようにしてください。
- あらかじめタンク内に薬剤のかたまりがないか確認してから作業をしてください。

- 薬剤タンクフタを開いて薬剤を入れてください。
  薬剤は少量ずつタンクに静かに投入し、タンク内は平らになるように入れてください。
- タンクへの薬剤の投入は最大５Ｌです。必要以上の投入および押し込みはしないでください。
  また、薬剤がこぼれたときはすぐに拭き取ってください。
- 薬剤タンクフタはストッパがかかるまでしっかりと締めてください。確実に締まっていないと、運転時にフタが開き薬剤がこぼれる恐れがあります。

図1

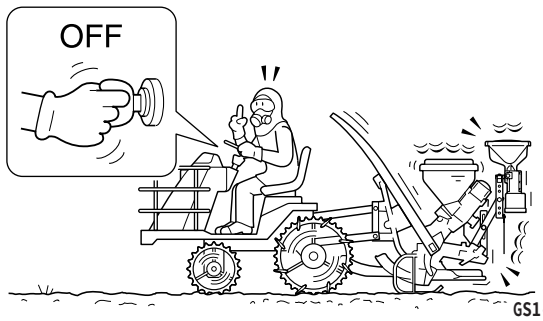


図2



図3

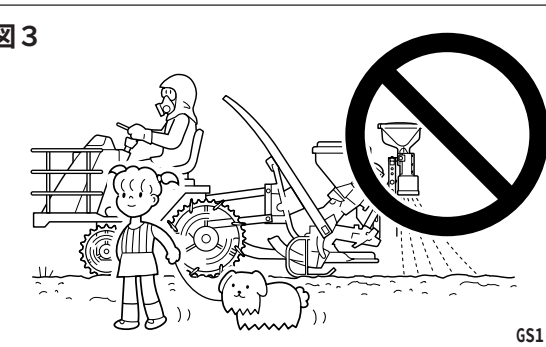
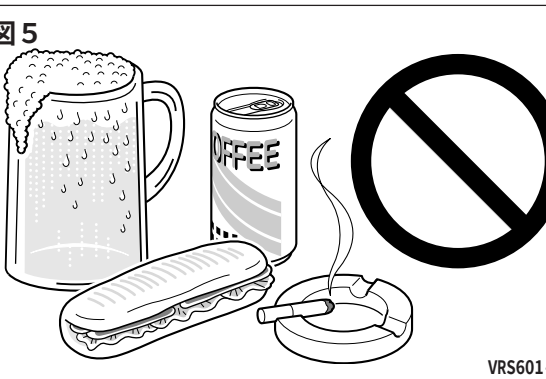


図4



図5



散布作業

⚠ 警　告

- 危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。
- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
- 散布カバー内で回転翼が高速で回転していますので、指または異物などの挿入は絶対にしないでください。
- 電源スイッチが入っているときは、散布カバー内を絶対にのぞかないでください。間欠的に農薬が飛散しますので目や顔に損傷をおよぼす恐れがあります。
- 作業中、からだに異常を感じたときは、すぐに作業を中止し医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

⚠ 注　意

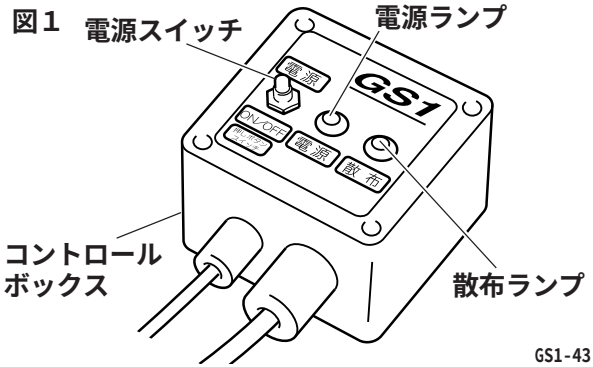
散布作業中は機械に人や動物を近づけないでください。散布した薬剤が人にかかり健康を害する恐れがあります。

傷害事故を防止するため

- 周辺にドアや窓の開いている家、自動車、ペット、子供、あるいは薬剤による傷害を起こすものがあるときには、薬剤は散布しないでください。
- 風が強いときには風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがありますので注意してください。
- 機械の始動時、また使用時は、その場所に他の人やペットを近づかせないでください。
- 散布作業中は喫煙、飲食をしないでください。農薬を吸引したり、食べ物に付着した農薬が体内に入る恐れがあります。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

操　作　方　法

図１



・調量ダイヤル目盛り位置を合わせ、走行直前にコントロールボックスの電源スイッチを押し「ＯＮ」にします。

（調量ダイヤル目盛り位置は、「散布量設定方法」の項を参照してください。（７～１１ページ参照））

・植付爪に連動していますので、田植走行時以外は散布しません。

・散布作業中は、コントロールボックスの散布ランプ（緑）が点滅します。

図２

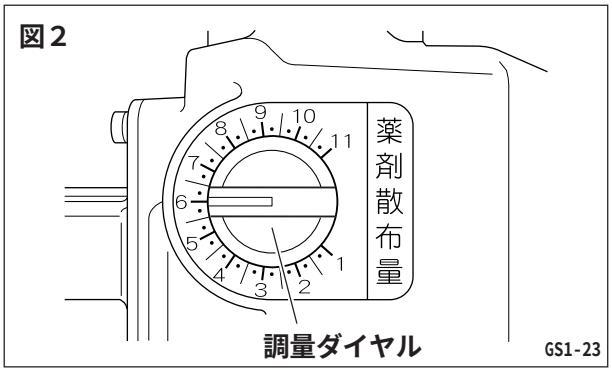
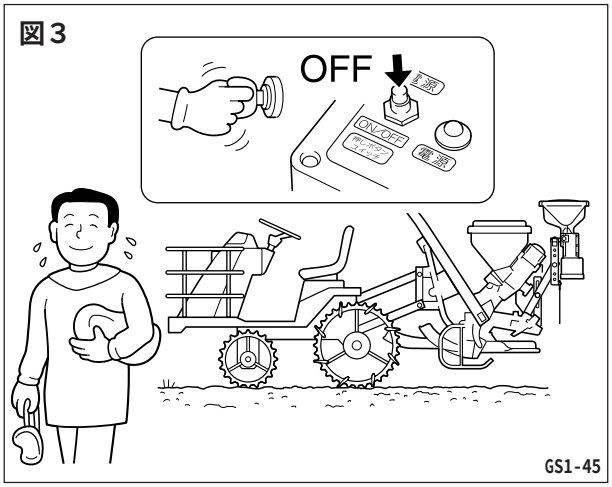


図３



重　要

・コントロールボックスの電源スイッチを入れたときに一回散布するようになっていますので、田植準備が終わり作業走行する直前にスイッチを入れてください。

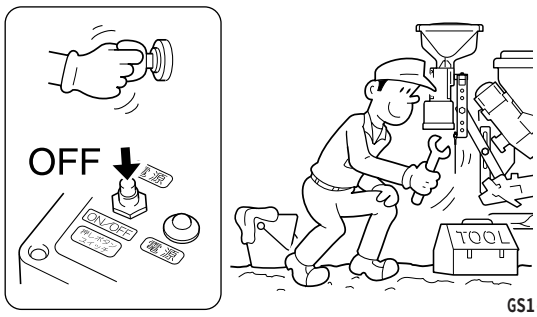
・**電源スイッチの切り忘れに注意してください。本機は田植機のメインスイッチ（キースイッチ）と連動していません。田植機のエンジンが始動していないときに電源が入ったままになっていると、バッテリを消耗します。**

・長時間の停止、圃場間の移動時、休憩時には必ず電源スイッチを押し「ＯＦＦ」にしてください。

・田植機から離れるときは必ずエンジンを停止し、電源スイッチを押し「ＯＦＦ」にしてください。

散 布 終 了 後

図1

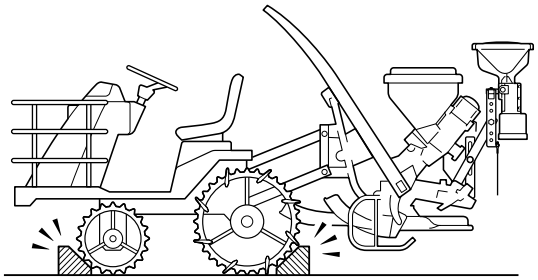


GS1-37

⚠ 警　告

- 点検・整備などの作業は、必ず田植機のエンジンを停止し、コントロールボックスの電源スイッチを押し「ＯＦＦ」にして行なってください。
  衣服が巻き込まれたり、散布カバー内の回転翼に触れてケガをする恐れがあります。
- 点検・整備など作業は、必ず堅牢な地面上で田植機の車輪止めをして行なってください。

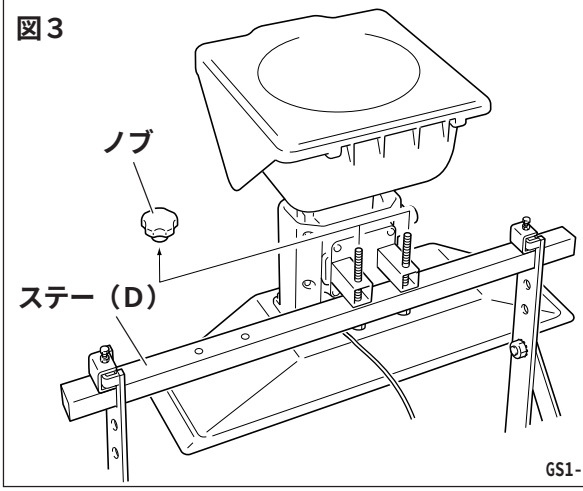
図2



GS1-38

・散布終了後は、忘れずに電源スイッチを押し「ＯＦＦ」にしてください。

図3



GS1-50

散布機の取外し

・本体から出ている配線のコネクタを外し、ステー（D）のノブを外して、散布機本体を取外します。

図4



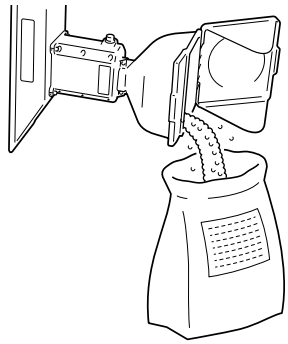
GS1-41

作業後の手入れ

重　要

- この取扱説明書と田植機の取扱説明書に従って、点検・整備を行なってください。
- 電気製品ですので散布機内部への水洗いはしないでください。
- 田植機を洗車する場合には、散布機を外してから行なってください。
- 散布機外側の清掃は水洗いを避け、濡れぞうきんで拭く程度にしてください。
- 雨天時の使用は可能ですが、散布カバー内が汚れますので使用後は掃除をしてください。
- 散布機内部を清掃する場合には付属のブラシを使用してください。

図１



GS1-36

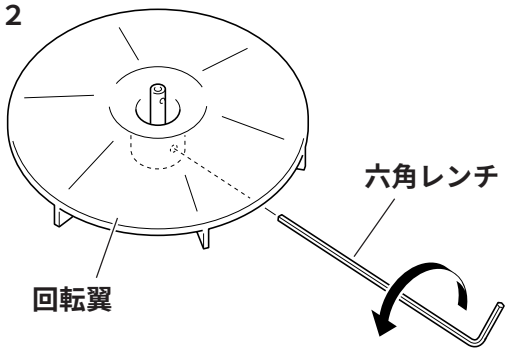
薬剤の排出

- 残った薬剤は、図1のように散布機を倒して排出してください。
- 薬剤タンク底の板を外し、付属のブラシを回転させながらパイプ内を掃除してください。

重　要

パイプ内を掃除するときは、パイプ奥のクランク部分よりも奥までブラシを入れないでください。

図２

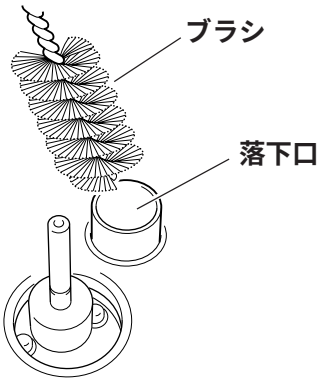


GS1-21

落下口の掃除

- 回転翼を付属の六角レンチで外してください。

図３



GS1-22

- 落下口を付属のブラシで掃除してください。
  落下口を上向きにすると散布機内にゴミなどが入りますので、横または下向きにして掃除してください。

重　要

落下口を掃除するときは、散布機を逆さにしないでください。

重　要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

長期保管

- 薬剤タンク内に薬剤が残っていないことを確認してください。
- 薬剤タンクフタを必ず締めてください。
- 長期間使用しない場合は、田植機のバッテリよりバッテリコードを必ず外してください。
- 配線のたるみを確認してください。
- 塗装の剥げた部分は腐食を防ぐためにも塗装し直してください。
- よく乾かした後に、風通しが良く湿気の少ない室内に保管してください。
- 温度が５０℃以上になる場所には保管しないでください。樹脂の性質上変形することがあります。

不具合と対策

⚠ 警　告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

・使用中に不具合が起きたときには、田植機の取扱説明書、または次の表に従って点検・調査の上対策を施してください。

トラブル	原　因	対　策
スイッチを入れても電源ランプが点灯しない。	1）コントロールボックスの電源コードがバッテリに正しく確実に接続されていない。 2）フューズが切れている。 3）バッテリの電圧が低い。 田植機搭載バッテリ：１２Ｖ以上ない ＧＳ１バッテリキット：１４Ｖ以上ない 4）電源ランプが切れている。 5）電源スイッチが故障している。	●コードの接続を正しく､確実に行なう。 ●コントロールボックス内のフューズ（１Ａ）を交換する。 ●バッテリが電圧不足であれば充電する。 ●電源ランプを交換する。 ●電源スイッチを交換する。
スイッチを入れてもすぐにフューズが切れる｡(エンジンを始動するとフューズが切れる｡)	1）モーターが故障している。 2）回転翼に薬剤が異常にこびりついている。	●モーターを交換する。 ●回転翼を掃除する。
スイッチを入れてもモーター・ソレノイドが作動しない。	注）電源投入時、モーターは常時、シフトブロック（ソレノイド）は一回だけそれぞれ作動するようになっている。 1）コネクタが確実に接続されていない。 2）配線のコードが断線している。 （赤･緑が断線しているとモーターが、白･黒が断線しているとソレノイドが作動しません｡） 3）モーターが故障している。	●コネクタを接続し直す。 ●配線コードの断線箇所の状態により、修理または交換する。 ●モーターを交換する。
植付け3回に1回散布ランプが点灯せず、 1）タイミングがおかしい。 2）散布ランプが点灯したまま。 3）植付爪が動いていないときに散布ランプが点滅する。	エンジンのスパークプラグからのノイズによる誤作動。	スパークプラグを抵抗入りプラグ（Ｒプラグ）に交換する。 例：ＢＰ６ＥＳ → ＢＰＲ６ＥＳ （Ｒが付くと抵抗入りです。）

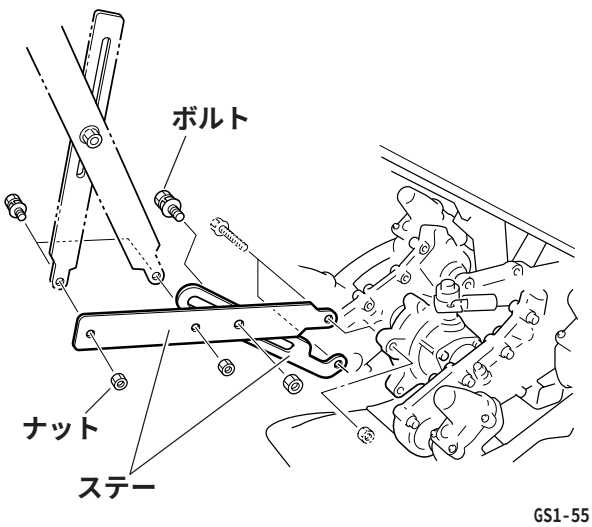
トラブル	原　因	対　策
薬剤が散布されない。	1）タンク内または散布カバー内の薬剤出口に薬剤が詰まっている。 2）薬剤が湿気をおびているか､古くなっている。 3）薬剤の中に異物が混入している。 4）薬剤が固まっている。 5）磁気センサーが正しく取付けられていない。 6）磁気センサーの配線が断線している。 7）コントロールボックスの電源スイッチが入っていない。	●薬剤の詰まりを取除く。 ●薬剤を排出し、新しいまたは乾燥した薬剤と取替える。 タンク内薬剤出口が湿っている場合は、乾燥させてから新しい薬剤を入れる。 ●薬剤を排出し、新しい薬剤を入れる。 ●薬剤を排出し、固まりを取除いてから、再度薬剤を入れる。 ●磁気センサーの取付手順を見直す。 ●磁気センサーを交換する。 ●電源スイッチを押し「ＯＮ」にする。
薬剤が均一に散布されない。	1）散布カバー内のフラップ板が正しく取付けられていない。（***GS1***の場合） 2）散布カバー両端のガイド部分が正しく取付けられていない。（***GS1W***の場合） 3）散布機の高さが正しくない。 4）モーターの回転方向が正しくない。 （モーターの正しい回転方向は、散布カバーを下から見て､時計回りです。）	●田植機の条数に合ったフラップ板を正しく取付ける。 ●田植機の条数に合った角度で正しく取付ける。 ●ステーの取付手順を見直す。 ●モーターの結線を確認する。
薬剤の散布量が多すぎる（または少なすぎる）。	1）散布量の調整が正しくない。 2）タンク内または散布カバー内の薬剤出口付近に薬剤が多量に付着している。 3）コントロールボックスが誤作動している。	●「散布量設定方法」の項を参照し、調量ダイヤルを設定し直す。 ●付着している薬剤を取除く。 ●スパークプラグを抵抗入りプラグ（Ｒプラグ）に交換する。

特 別 注 文 品

・本機の標準出荷仕様のほかに、次のアタッチメントが特注品として用意されていますので、ご利用状態により別途お買い求めの販売店にご用命ください。
・本機が取付けできない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
・ヤンマー「VP4，5，6」には、各々ヤンマー専用金具が用意されていますので、ヤンマー製品の販売店へお問い合わせください。

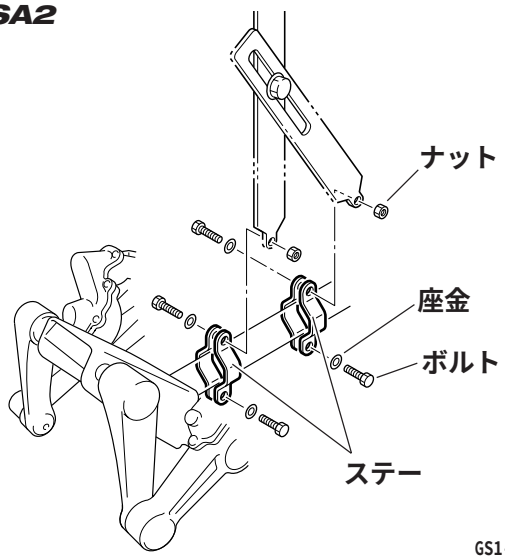
形式名	アタッチメント内容		部品番号
GSA1	ステー	クボタ田植機で本機装着時、側条施肥機などをよけて取付けしたい場合に使用します。	P021-006270
GSA2	ステー	本機装着時、田植機の植付爪クランクケースに直接ステーが取付けできない場合に使用します。 （ヤンマー「Ｐｅ-1，２」型など）	P021-006280
GSA3	ステー	本機装着時、田植機の植付爪クランクケースに直接ステーが取付けできない場合に使用します。 （三菱「ＭＰＲ４３」型）	P021-006300
GSA4	ステー	ヤンマー「Ｐｅ-1，２」型で側条施肥機付仕様の田植機に取付ける場合に使用します。	P021-006441
GSA5	ステー	クボタ田植機で本機装着時、ＧＳＡ１を使用すると本機が過度に田植機の後方に装着されてしまう場合に使用します。 または、植付ケース上側に取付穴がない場合に使用します。	P021-007090
GSA6	ステー	ヤンマー「ＧＰ１０」型に本機を取付ける場合に使用します。	P021-007100
GSB2	バッテリ	田植機から１２Ｖ電源の供給が受けられない場合（バッテリ不搭載、バッテリ出力端子がないなど）に使用します。	P021-009480

GSA1



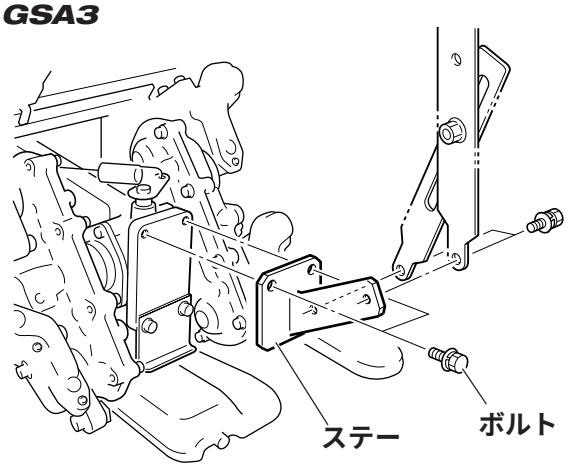
GS1-55

GSA2



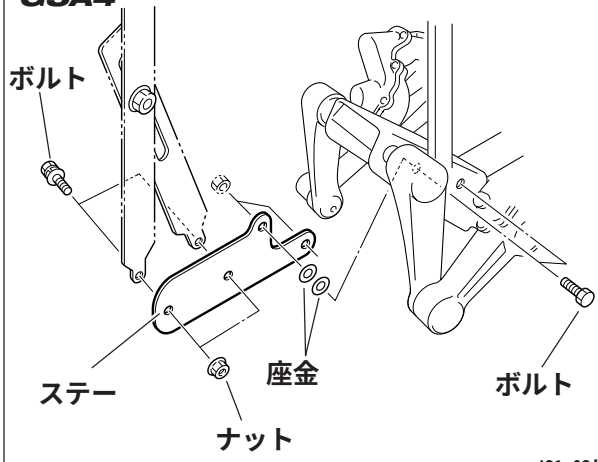
GS1-29'

GSA3



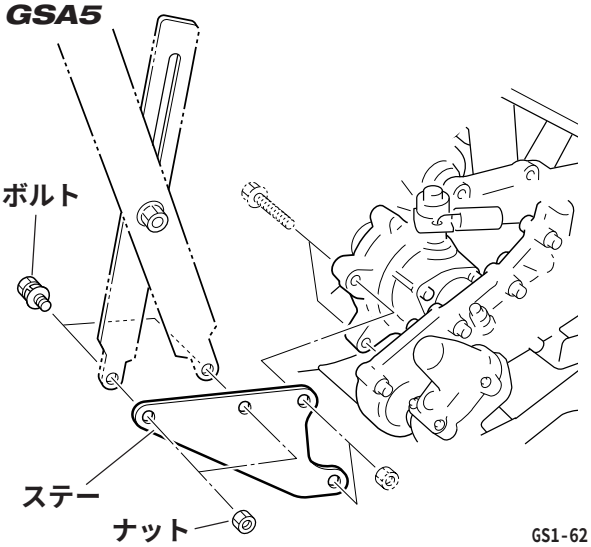
GS1-56

GSA4



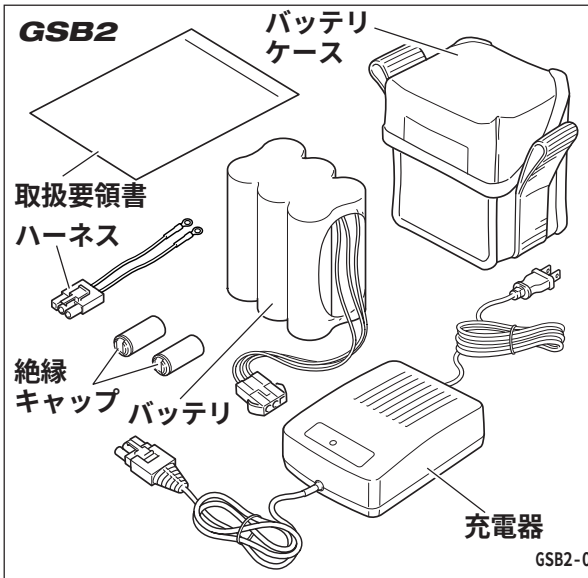
JS1-03'

GSA5



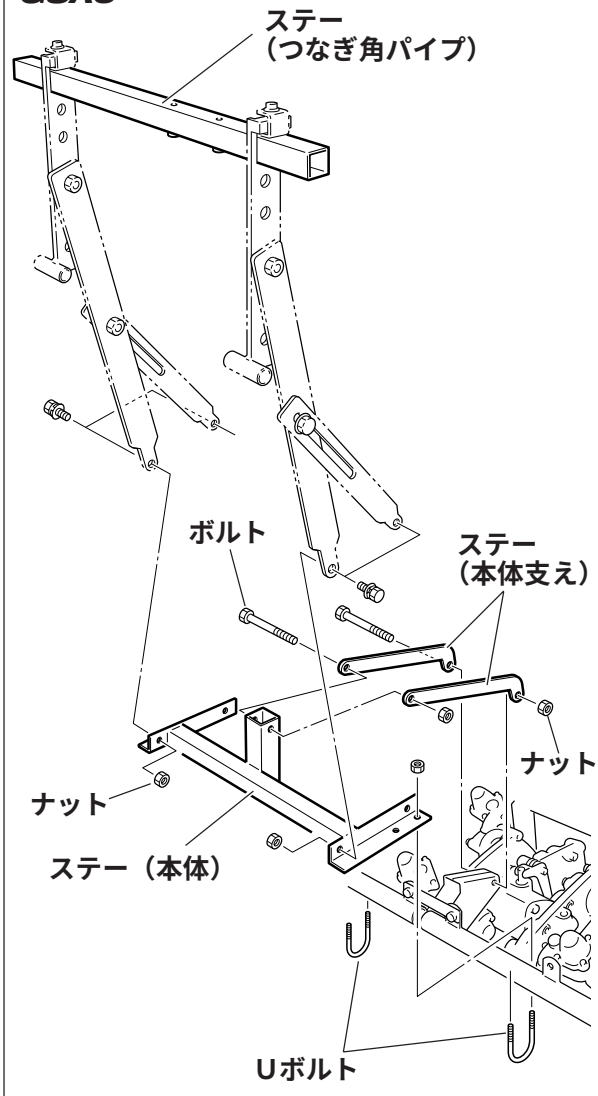
GS1-62

GSB2



GSB2-01

GSA6



GS1-63

仕　　様

項　　目	単位	GS1	GS1W
質量 （取付ステー・泥よけカバー含む）	kg	7.7	11.4
外形寸法（本体） 長さ×幅×高さ	mm	620 × 295 × 470	1080 × 295 × 470
薬剤タンク容量	L	5.0	
調量方式		調量ダイヤル	
吐出方式		乗用田植機取付型、植付けスピード連動	
吐出量		植付条数・植付株間・植付爪回数から感知	
電源		田植機搭載のバッテリ　DC12V	
適用機種		4～6条 乗用バッテリ搭載田植機	7,8,10条 乗用バッテリ搭載田植機
使用薬剤		１キロ除草剤（田植同時処理可能薬剤）	

注）一部装着できない機種もありますので、事前に確認してください。

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

株式会社 共立

東京都青梅市末広町1-7-2　〒198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東1-2-20　〒004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東5-1-50　〒984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町1-39　〒452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田566-159　〒701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原5-3-7　〒816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町1-7-2　〒198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-005 97 1
X750117-050 1

0504Al 0478 ES

© 2003 株式会社 共立　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。